

第八十九回帝國議會
衆議院

農業團體法中改正法律案外一件委員會會議錄(速記)第三回

付託議案

農業團體法中改正法律案(政府提出)

(第八號)

水產業團體法中改正法律案(政府提出)

(第九號)

戰時森林資源造成法中改正法律案

(政府提出)(第三號)

蠶絲業法改正法律案(政府提出)(第一七號)

昭和二十年十二月十一日(火曜日)午前
十時二十一分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 川崎巳之太郎君

理事 仲西 三良君 理事 松延彌三郎君

理事 北 勝太郎君

安倍 寛君

五十嵐吉藏君 石坂 養平君

今尾 登君

岡田啓治郎君 宇山 耕一君

鈴木 重次君

演地 文平君 田嶋榮次郎君

山田 六郎君

青山 憲三君 安孫子孝次君

眞藤慎太郎君

二田 是儀君 唐橋 重政君

同日委員加藤宗平君附任ニ付其ノ補闕

トシテ唐橋重政君ヲ議長ニ於テ選定セ

出席國務大臣左ノ如シ

內務大臣 堀切善次郎君

出席政府委員左ノ如シ

大藏省外務局長 野田 卯一君

司法省政務次官 手代木隆吉君

農林政務次官 紅露 昭君

農林參與官 子爵北條 悠八君

農林省總務局長 梶見 義男君
農林省山林局長 黒河地 透君
農林省水產局長 笹山茂太郎君
農林省蠶絲局長 山添 利作君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
農業團體法中改正法律案(政府提出)
水產業團體法中改正法律案(政府提出)

戰時森林資源造成法中改正法律案
(政府提出)

蠶絲業法改正法律案(政府提出)

○北委員長代理 ソレデハ是カラ農業

團體法中改正法律案委員會ヲ開會致シ

マス 紅露政府委員

○紅露政府委員 蠶絲業法改正法律案

ノ提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス、蠶絲

業法改正法律案ノ提案ノ理由ニ付キマ

シテ、本會議ニ於キマシテ其ノ趣旨ト

スル所ヲ申述ベタノデアリマスルガ、

此處ニハ本法案ノ主ナル内容ヲ舉ゲテ

御説明申上ゲタイト存ジマス

本法案ノ主ナル内容ノ第一ハ、日本

蠶絲統制株式會社ノ解散及ビ之ニ伴フ

善後措置デアリマス、日本蠶絲統制株

式會社ハ蠶絲業統制法ニ基キ設立セラ

レ、蠶種、繭及ビ生絲ノ一手買入及ビ

賣渡並ニ繭絲價格ノ安定施設等斯業

統制ノ中樞機關トシテ運営致シテ參ツ

タノデアリマスガ、今般聯合軍最高司

令部ヨリノ指示モアリ、解散致スコト

ト相成ツタノデアリマス、之ニ伴ヒマ

シテ現在同社ノ保有シテ居リマス繭絲

價格安定資金ニ付キマシテハ、本施設

ノ目的ト由來ニ鑑ミマシテ、同資金ハ

目下關係蠶絲業者ニ於テ設立ノ準備ヲ
進メテ居リマス蠶絲業團體法ニ之ヲ
承繼セシムルコトトシ、其ノ際稅法上

特別ノ措置ヲ講ズルコトヲ致シタノデ

アリマス、又日本蠶絲統制株式會社ノ

性質ニ照シマシテ、其ノ清算ニ付テハ

所要ノ行政上ノ監督ヲ致スコトヲ致シ

タノデアリマス、而シテ統制會社ノ解

散ニ伴ヒマシテ、蠶絲統制法ハ其ノ大

半ノ目的ヲ喪失致シマスノデ、之ヲ廢

止スルコトヲ致シ、同法中蠶絲ノ需給

調整又ハ輸出ノ振興上必要ナル命令、

繭檢定及ビ生絲檢査並ニ蠶絲業ノ企業

許可ニ關スル規定等ハ、之ヲ本法案中

ニ移シテ、輸出向生絲ノ増産並ニ其ノ

確保等、現下ニ於ケル蠶絲業ノ目的達

成ヲ圖ツテ參ルニト致シタノデアリ

マス

第二ハ蠶絲團體制度ノ整備デアリマ

ス、戰時中ニ於ケル蠶絲業統制機構ハ

之ヲ廢止致シマスル共ニ、今後ニ於

キマシテハ、關係者ノ自由且ツ活潑ナ

ル自主的の運営ニ依リマシテ、蠶絲業

秩序アル發展ヲ圖ル共ニ、國家ノ期

待スル要請ヲ果シテ參ラネバナラヌ

デアリマス、此ノ目的ノ爲ニ新タニ蠶

絲業ニ關スル指導獎勵及ビ統制ヲ行フ

共ニ、當面輸出生絲確保ノ爲メドウシ

テモ必要デアル生絲ノ統制賣買ヲ行

フ所ノ蠶絲業會ノ制度ヲ設ケルコトト

致シタノデアリマス、此ノ團體ハ蠶ニ

申シマシタヤウニ目下業者ノ間ニ其ノ

設立ノ準備ヲ致シテ居ルヤウナ次第デ

アリマス、又此ノ團體ガ成立致シマス

ルト、自然蠶絲業組合法ニ基キマス日

本中央蠶絲會モ其ノ存在理由ヲ喪失ス

ルコトニナリマスノデ、是ハ解散ヲ致

スコトニ致シタノデアリマス

第三ハ、原蠶種管理制度ノ改正デア

リマス、御承知ノヤウニ從來原蠶種

ノ製造配付ハ、政府以外ニハ出來ナイ

コトニナツテ居ルノデアリマスガ、管

理法施行以來十年、今デハ蠶種業界界

面目ヲ一新致シテ居リマシテ、同法ハ

一應其ノ目的ヲ達成シマシタコト、並

ニ今後急速ニ優良蠶品種ノ發見及ビ其

ノ普及ヲ促進スル爲ニハ、民間ニ於ケ

ル優良原蠶種ノ選出育成者ニ對シ

テ、其ノ製造配付ヲナシ得ルコトニ致

シテ參ルコトガ適當ト認メマシテ、其

ノ改正ヲ致シマシタ、同時ニ民間發見

ノ優良品種ニ付テモ、其ノ普及ヲ確保

スル意味ニ於キマシテ、原蠶種ノ選

出育成者ニ其ノ公開ヲ應ゼシメマス

共ニ、政府ニ於キマシテモ選出育成者

ヨリ蠶品種ノ提出ヲ求メ、原蠶種ノ

製造配付ヲナシ得ルコトヲ致シタノデ

アリマス、尙ホ從來ノ如キ原蠶種ノ選

渡ノ禁止ハ之ヲ廢シ、自由トスルコト

ト致シタノデアリマス

第四ハ、蠶種ニ關スル制度ノ改正デ

アリマス、從來蠶種製造業ハ地方長官

ノ免許スル所トナツテ居タノデアリマ

スガ、蠶種製造業ノ現狀ト、今後蠶種

ノ需給ハ之ヲ全國的ニ勘案スルノ必要

性ニ鑑ミマシテ、今回其ノ許可ヲ地方

長官ヨリ主務大臣ニ移スコトニ致シタ

ノデアリマス

官行檢査ニ依リ、例外的ニ業者又ハ其

ノ團體ノ自治檢査ヲ認メテ居リマス

ヲ、今後ハ廣ク自治檢査ヲ認ムルコト

トシ、別ニ新タニ都道府縣ノ監督檢査

ノ制ヲ設ケントスルノデアリマス

以上ガ本法案ノ大體ノ骨子トスル所

デアリマスガ、蠶絲業ハ農村經濟ノ重

要ナル一環ヲ成シマス蠶絲業ヲ初メト

シ、蠶種、製絲、輸出等、之ニ關與ス

ル部面ハ洵ニ廣汎デアリマシテ、我ガ

國產業中、最モ特異ニシテ且ツ主要ナ

ルモノデアリマス、今後ハ更始一新、

關係業者ノ協力一致ニ依リマシテ、安

定シタル基礎ノ下ニ其ノ回復發展ヲ圖

リ、以テ我ガ國經濟再建ノ爲メ斯業ニ

與ヘラレタル使命ヲ遂行ニ萬全ヲ期シ

タイ所存デアリマス、何卒御審議ノ上

速カニ御可決下サランコトヲ懇望致ス

次第デゴザイマス

○北委員長代理 愛野君

○愛野委員 今マデノ農業會ハ、戰時

農業政策ノ遂行上、必要以上ニ官僚的

ナ、又指導者原理ガ含マレテ居ツタノ

デ之ヲ改廢スル必要ハ十分認メルノデ

アリマスガ、私ガ御伺ヒ致シタイト思

ヒマスノハ、此ノ自主的の協同團體のナ

組織ニ改廢スル場合ニ於テ、例ヘバ畜

產トカ、或ハ茶葉トカ、サウ云ツタモ

ノガ獨立的のニナツテ、今マデノ農業會

ノ面デ一括的の統制セラレテ居ツタヤ

ウナモノガ將來個々ニバラ／＼ニ離レ

テ行クヤウナ傾向ガアリマスガ、サウ

云フ指導的の考ヘ方ヲ農林省デ御持チ

ニ困ルト云フノデ、縣其ノ餓ト詔ツテ
松葉カラ切削油ヲ作ルト云フヤウナ事
業ヲヤツタノデアリマスガ、斯ウ云ツ

受ケタト云ツタ場合ニハ、ドウ云フ風ニ御取扱ニナリマスカ、其ノ點モ一ツ伺ツテ見ダイ

○補見政府委員 戰時中ニ於キマシシマハ、獨リ主要食糧ノ問題ダケニ限リマ

セヌデ、他ノ食糧關係、例ハ戸金、鹽田事業ト云フヤウナコトニ付キマシテ、最も的確ニ又最も速クハ御國ニ出來ル鹽鐵トシテ、農業鹽鐵ニ相當ノコトヲ御願ヒシタリデアリマス、又食糧以外ノ問題ニ付キマシテモ、例ハ

ハ只今御話ノ如キ切御油ノ問題 根本
的ニハモツト大キナ問題トシテ松根油
ノ非常増産、斯ウ云フヤウナコトモ御
願ヒシマシタ、更ニ又雜纖維ノ問題
ニ付キマシテモ御願ヒヲ致シタノデア
リマス、勿論是等ノ仕事ニ付キマシテ

ハ、所ニ依リマシシテハ農業會ニ取ツテ
ハ相當大キナ負擔デアリ、又努力ヲ御
掛ケシタコト思フノデアリマス、政
府ト致シマシテ其ノ時ノ急迫セル狀況
ヲ打開スル爲ニ、國策トシテ農業團體
ニ御願ヒシタ事柄、是等ノ事柄ニ付テノ

跡始末ニ付テハ、勿論申上ゲルマデモ
ナク、政府トシテハ責任ヲ以テ處理ス
ルト云フ風ニ考ヘテ居リマスノデ、其
ノ點ハ左様御諒承願ヒタイト思ヒマス
○愛野委員 大體小ノ質問ハ此ノ程度
デ終リタイト思ヒマスガ、私ノ希望致

シマス所ハ、今後農業會ハ土地ノ開發
等ニ絡ミマシテ、事務的ニモ極メテ煩
雜ニナツテ來ルダラウト思ヒマス、ソ
レカラ私ガ農業會ノ運営ニ當ツテ、農
業會ノ最モヤリニクイ點ハ何デアルカ
ト申シマス、農業會ト云フ所ハ財源

ガアリマセヌ、是ハ自治體ニナツテ見
テモ、自治化スレバスル程、運営上困
ツテ來ルノハ財源ノ點デアラウト思ヒ
マス、所謂増産獎勵其ノ他ハ政府ノ補
助金ニ依ツテアルノデアリマスガ、是
ハ口食ベテ、汚イ話デアリマスガ、
後口カラ出スト云フ風ナ譯デ素通リデ
アル、其ノ間ニハ何等財源ノナモノハ
浮ンデ來ナイノガ本當デアリマス、唯
農産物ノ販賣手数料トカ、サウ云ツ
タヤウナモノニ依ツテ財源ハアルノデ
アリマス、ソレデケデハ、例ヘバ自治
化サレテモ技術員ノ向上ノ問題トカ、或
ハ農業技術ノ積極的ナ改革トカ、其ノ
他政治面ニ於ケル農民團體ノ活躍ニ對
スル補助トカ、サウ云ツタモノハサウ
出來テ來ナイノデアリマス、然ルニ農
業會ノ指導ト致シマシテハ、極メテ事
業的ニハ制約サレテ居ルノデアリマシ
テ、此ノ點ハ私ハ理論的ニ考ヘテ見テ
モ、農村ニ對シテハ都市ノ工業生産物
ハ相當高價價格ニ依ツテ農村ヲ搾取シ
テ金ヲ持ツテ行ク、農村ノ結果シテ困
體ハ出來ルデケ農村ノ生産ニ必要ナモ
ノデケニ事業的ニハ止メラレテ居ルト
云ツタヤウナ、極メテ農業會ノ運営ノ
上ニ於テ制約サレタコトニナツテ居ル
ノデアリマス、隨テ今ノ儘ノ形デヤツ
テ行クナラバ、農村ガ漸次都市ニ資金
ヲ吸收サレル一ツノ原因ニモナツテ行
クダラウ、私ハ相當廣範圍ニ活動シ得
ルヤウナ權利ヲ農民ニ與ヘネバナラヌ
ノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノ
デアリマス、其ノ點ニ付テドウ御考ヘ
ニナリマスカ、此ノ問題ハ私ハ農民ガ
協同自治ノ立場ニ立テバ立ツ程難カシ
イ問題ニ實際ノ面トシテハナツテ來ル
ト思フ、現在ノ農業會デモ技術員ノ報

酬ヲ農業會獨自ノ資金ニ依ツテ、假ニ
年ニ一人當リ十圓ツツ上ゲテモ、モウ
既ニソレデケ穴ガ開ク、ヤハリ中央官廳
カラ金ヲ貰ツテ行カナケレバ實行出來
ナイト云フ狀態ニアル、其ノ點ニ付テ
ドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居リマス
カ

○桶見政府委員 農業會ノ經營ノ問題
デアリマスガ只今御述ベニナツタヤウ
ニ現在農業會ノ事業トシテ指導事業ト
經濟事業ガゴザイマス、指導事業ノ方
ハ、ドチラカト申シマス、是ハ金ガ
要ルバカリデ收入ガ伴ハナイ、併シ指
導事業ノ結果ハ、個々ノ農民自體ガソ
レデケ產業ガ改良サレ、又其ノ他ノ點
ニ於テ發展ヲ見ル譯デアリマス、併シ
農業會自體トシマシテハ、寧ろ出ルバ
カリデ、金ハ入ツテ來ナイ、結局經濟
事業ニ重キヲ致サナケレバナラヌ、斯
ウ云フヤウナ情勢デアアル譯デアリマ
ス、而モ此ノ經濟事業ニ付キマシテ
ハ、從來ノ公定價格制度ノ結果ハ、出
來ルデケ手数料モ低目ニシテ居ルト云
フコトカラ致シマシテ、益々農業會ノ
經營ガ苦シクナツテ居ルコトモ事實デ
アリマス、ソコデ今後ノ農業會ノ經濟
面カラ見テ運營ノ方向ハ、ドウ云フ方
向ニ持ツテ行クベキデアルカト云フコ
トニナリマス、結局從來通りナリ、指
導事業ニハ多ク期待出來ナイカラ、
經濟事業ニ中心ヲ置イテ參ラナケレバ
ナラヌト思フノデアリマス、併シ經濟
事業ニ付キマシテモ、是ハ昨日モ此ノ
席デ大臣カラ申上ゲタノデアリマス
ガ、農業會ガ經濟事業ヲ營ミマス場合
ニ、出來ルデケ收入ヲ多クスルト云フ
觀點ノミニ立ツテ、凡ニ產業ニ手ヲ
出スト云フコトニ付テハ、是ハ如何ナ
モノカ、斯ウ云フ風ニ我々モ考ヘテ居

ルノデアリマス、飽クマデ其ノ中心ハ
農産物ノ加工事業ト云フ點ニ重點ヲ置
イテ、出來ルデケ其ノ加工ニ依ツタ收
益ヲ以テ其ノ運營ノ財源ニシテ行ク、
又ソレガ結局農産物ヲソレデケ高ク有
利ニ販賣出來ルコトニナル譯デアリマ
シテ、我々ト致シマシテハ、此ノ加工
事業ニ出來ルデケ力ヲ注イデ參リタ
イ、此ノコトガ實ハ又今後ノ農村ニ於
キマス農工調整ノ問題デアリ、更ニ
又農業ノ機械化科學化ニ依ル農村人口
ノ包容ト云フ觀點カラ申シマシテモ、
是非此ノ加工事業ト云フモノニ力ヲ注
イデ參ラナケレバナラヌノデアリカ、
斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル譯デアリマス
勿論其ノ加工ノ業以外ノ生産物ノ販賣
ニ關スル手数料ノ問題、是モ昨日申
上ゲタコトデアリマスガ、例ヘバ米ノ
販賣手数料ノ如キモ、本年カラ食糧需
給特別會計デ負擔スルコトニ致シタノ
デアリマスガ、斯ウ云フヤウナ手数料
ノ額ノ問題、並ニ負擔ノ問題、斯ウ云
フヤウナコトモ併セテ考慮シナケレバ
ナラヌトハ存ジテ居リマスガ、併シ積
極的ナ方面トシマシテハ、生産物ノ加
工方面、此ノ方面ニ特ニ力ヲ注イデ參
リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○愛野委員 農兵隊ヲ解散スルヤウナ
氣持ハアリマセヌカ

○桶見政府委員 農兵隊ノ問題ニ付キ
マシテハ、是ハ戰爭中モ御承知ノヤウ
ナ非常な效果ヲ擧ゲタノデアリマスル
シ、又農村ノ中堅青年トシテ今後ノ
考ヘ方カラ申シマシテモ、是非存續ハ
シタイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマ
スガ、唯名稱ガ農兵隊ト云フコトニナ
ツテ居リマスノデ、名稱ハ此ノ時代ニ
於キマシテハ改メタ方ガ宜イトハ存ジ
テ居リマス、或ハ食糧増產隊ト申シマ

スカ、斯ウ云フヤウナコトデ存續サシ
テ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス
○愛野委員 農兵隊中モ農兵隊ハ餘
リ役ニ立ツテ居ナイト思フテ居ル者ノ
一人デアリマス、特ニ農兵隊ト申シマ
スカ、二年カ集團的ニ訓練サレタ爲
ニ、實質的ナ生産面ニ對スル勞務ニ不
足ヲ來シテ居ル事實ハ澤山アルノデア
リマス、而モ今日ニ於テハ、特ニ終戰
後ノ農兵隊ノ所謂氣ト云ヒマスガ、
士氣ト云ヒマスガ、相當廢廢シタ面
モ、名前ハ指シテハ申シマセヌガ見受
ケラレルノデアリマス、是コソ所謂官
僚指導ヲナサレテ、特ニ民間ノ農業會
アタリニ依ツテ指導スルヤウナ自治的
ナ方法ニナサレタ方ガ效果ガ上リハセ
ヌカト思フノデアリマスガ、如何ナル
モノデアリマセウカ

○桶見政府委員 戰爭中ノ農兵隊ニ付
キマシテハ、是ハ只今御述ベニナリマ
シタヤウニ色々指導者ノ面デ、勿論
是ハ特ニ増產ヲ主ニシタ組織デアツタ
ノデアリマスガ、指導者ノ面ニ於テ動
モスレバ餘リニ精神的ニ流レ、或ハ又
餘リニ軍隊規律的ニ流レマシタ爲ニ、
サウ云フヤウナ弊害ノアツタコトモア
ラウト思フノデアリマスガ、併シ其ノ
實體ニ於キマシテハ、相當ムツカシ
イ、又急ヲ要スル事業ニ對シテ、若イ
青年達ガ特ニ突貫工事デ大キナ土地改
良事業ヲヤリマシタリ、其ノ他ノムツ
カシイ土地ノ關係ノ仕事ヲヤリ遂ゲタ
事例モ少クナイノデアリマス、是カラ
ノ行キ方ニ付キマシテハ、從來ノヤウ
ナ長イ期間ニ於ケル組織、並ニ主トシ
テ軍隊的ノ規律ヲ中心トシタ指導ノ問
題、斯ウ云フヤウナ問題ハ勿論拂拭シ
テ參ラナケレバナラヌト思フノデアリ
マスガ、併シ土地改良トカ、開墾ト

カ、色々問題デ機動的ニ使ハナケレ
バナラヌコトモ多イカト思フノデアリ
マス、勿論只今御述ベニナリマシタ通
リニ、此ノ動カシ方ニ付テハ、農業會
ト云フモノト密接ナル關係ヲ持ツテ參
リマセヌト、其ノ效ヲ擧ゲ難イコトハ
御話ノ通りデアリマス、隨テ是カラノ
行キ方ハ農事技術ト云フモノヲ中心ニ
致シマシテ、短期間ノ訓練ヲ施シテ參
ル、斯ウ云フ行キ方デ進ミタイト思フ
ノデアリマスガ、同時ニ是ガ運營ト云
フコトニナリマス、農業會或ハ農事
試験場ト云フヤウナ所ト特ニ緊密ナ連
絡ヲ執ツテ運營シテ參リタイ、斯様ニ
考ヘテ居ルノデアリマス

○愛野委員 食糧管理局長官ハオイデ
デハナイデスカ

○北委員長代理 今呼ビニ參リマスカ
ラ、デハ其ノ間鈴木君

○鈴木(重)委員 食糧ノ生産ニ付キマ
シテハ、國民ノ食糧ノ自給自足ヲ圖ル
面ト、農民ノ生活安定ヲ圖ル面トヲ考
ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス
ガ、先ツソレニ付キマシテ、食糧ノ自
給自足ノ點ヨリ致シマシテ、主要食糧
品ノ需要見込高、之ニハ酒、味噌、醬油、
斯ウ云フヤウナモノモ含メタル總量
ヲ御示シテ願ヒ、又之ニ對シマシテ生
産シ得ベキ目標ヲ御示シ願ヒタイト思

○鈴木(重)委員 食糧ノ生産ニ付キマ
シテハ、國民ノ食糧ノ自給自足ヲ圖ル
面ト、農民ノ生活安定ヲ圖ル面トヲ考
ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス
ガ、先ツソレニ付キマシテ、食糧ノ自
給自足ノ點ヨリ致シマシテ、主要食糧
品ノ需要見込高、之ニハ酒、味噌、醬油、
斯ウ云フヤウナモノモ含メタル總量
ヲ御示シテ願ヒ、又之ニ對シマシテ生
産シ得ベキ目標ヲ御示シ願ヒタイト思

○鈴木(重)委員 食糧ノ生産ニ付キマ
シテハ、國民ノ食糧ノ自給自足ヲ圖ル
面ト、農民ノ生活安定ヲ圖ル面トヲ考
ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス
ガ、先ツソレニ付キマシテ、食糧ノ自
給自足ノ點ヨリ致シマシテ、主要食糧
品ノ需要見込高、之ニハ酒、味噌、醬油、
斯ウ云フヤウナモノモ含メタル總量
ヲ御示シテ願ヒ、又之ニ對シマシテ生
産シ得ベキ目標ヲ御示シ願ヒタイト思

○鈴木(重)委員 食糧ノ生産ニ付キマ
シテハ、國民ノ食糧ノ自給自足ヲ圖ル
面ト、農民ノ生活安定ヲ圖ル面トヲ考
ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス
ガ、先ツソレニ付キマシテ、食糧ノ自
給自足ノ點ヨリ致シマシテ、主要食糧
品ノ需要見込高、之ニハ酒、味噌、醬油、
斯ウ云フヤウナモノモ含メタル總量
ヲ御示シテ願ヒ、又之ニ對シマシテ生
産シ得ベキ目標ヲ御示シ願ヒタイト思

ヒマス

○補見政府委員 只今ノ鈴木サシノ御質問ニ對シマシテハ、食糧管理局長官カヲ御答ヘ申上ゲタ方ガ適當デアルカト思ヒマスガ、一應私カラ申上ゲマシテ、補充ノナコトハ、後程食糧管理局長官ノ方カラ申上ゲテ戴クコトニ致シタイト思ヒマス、現在ノ食糧需要ノ面デアリマスカ、總額ハ二合一勺ノ「ペー」ス」デ申シマス、七千八百二十一萬石、斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、其ノ内譯ハ、只今御尋ネノ酒造用米ハ八十五萬石ニナツテ居リマス

〔北委員長代理退席、委員長著席〕

是ハ一時ハ四百萬石乃至四百五十萬石使ツテ居リマシタ、ソレヲ段々ト食糧事情ガ窮乏ニナリマスノデ、此處マデ下ゲタノデアリマスガ、更ニ最近ノ事情カラ致シマシテ、只今申上ゲタ八十五萬石ハ更ニ二十萬石程度ハ節減スル、斯ウ云フ方向デ現在進ンデ居リマス、ソレカラ味増其ノ他ノ用途デアリマスガ、是ハ百五十萬石、斯ウ云フ風ニナツテ居リマシテ、大體味増ノ方面ハ、此ノ百五十萬石ノ中ノ五十萬石デ、其ノ他ノ五十萬石ハ船舶ノ用デアリマス、或ハ刑務所ノ方面ニ廻シマストカ、斯ウ云フモノヲ含マセマシテ百五十萬石ニナツテ居ルノデアリマス、ソレカラ翌年ヘノ繰越ヲ二百五十萬石見テ居ルノデアリマス、今申シマシタ堅年ノ繰越、味増其ノ他ノ用途、或ハ酒造用ト云フモノヲ除キマシタモノガ、全體ノ食糧ノ配給ニナル、或ハ農家ノ消費ニナル、斯ウ云フ風ニ需要面デアリマシテ居ルノデアリマス、供給面ニ付キマシテハ、何ト申シマシテモ一番大キナモノハ本年ノ産米デアリマス、是ハ我々トシマシテハ今年ノ收穫ノ見

込ヲ一應四千二百九十六萬石、斯ウ見テ居リマシテ、其ノ中カラ前年度ニ早食ヒラシマシタモノヲ約二百八十萬石引イタ殘リヲ、本年ノ食糧供給面ニ充テテ居ルノデアリマス、同時ニ來年ノ米ノ早食ヒラ二百八十萬石見テ居ルノデアリマス、ソレ以外ニ麥類ニ付テ七百五十萬石、是ハ米換算デアリマシテ、大體玄麥デ申シマス、麥類デ米換算ガ七百五十萬石、諸類デ三百五十萬石餘見テ居リマス、ソレ以外ニ未利用資源トシマシテ約百五十萬石、ソレカラ大體デアルトカ其ノ他ノ雜穀、斯ウ云フモノヲ六百五十萬石、結局總計シテ供給面ハ五千九百二十九萬石、斯ウ云フ風ニナルノデアリマシテ、差引不足致シマスノガ一千八百萬石餘、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス

○鈴木(重)委員 將來主要食糧トシテ生産シ得ベキ御見込總額ハ如何デアリマスカ、更ニ今後外地ヨリ歸リマシタル在外同胞並ニ歸還兵士等モアルデアリマセウガ、左様ナルモノノ歸リマシタ後ニ於ケル總需要量ハドンナモノデアリマセウカ、サウ云フ御見込ヲ伺ヒタイ、要スルニ質問ノ目的ハ、現在ノ耕地ヲ以テ、或ハ今後ニ開墾シ得ベキ政府ノ計畫ニ依ル増收等モ合セテ、需要量ヲ果シテ充足シ得ルカ否カ、此ノ點ニ付テ政府ノ御見解ヲ伺ヒタイト云フノガ、私ノ質問ノ目標デアリマス

千二百九十萬石、約四千三百萬石デアリマスカラ、其ノ最高ノ時ト本年ト比較シマス、其ノ間ニ二千七百五十萬石ノ差ガアルノデアリマス、ソコ勿論先程申上ゲマシタ「二合一勺」ガ「ペー」ス」デアリマスカラ、是デ以テ十分ハ決シテ思ツテ居ラナイノデアリマスガ、假ニ現在ノ千八百九十萬石ノ不足額ニ比較シマス、米ノ產額ガソノ差額ニ出來レバ當然本年ハ輸入問題ニ付テ餘ガナクテモヤツテ行ケル、斯ウ云フコトニナル譯デアリマス、隨テ結局問題ハ國內ノ生産額ガドウ程度ニ行ケルカト云フコトガ一番大キナ問題デアリマシタ、併シソレガ先ヅ出來ルト云フコトハ、今机上デ計畫サレル所ノモデアリマシテ、果シテ是ガ左様ニ參ラカドウカ、是ハ我々トシテハ極メテ不安ニ思ツテ居リマス、殊ニ今後百五十萬町歩ノ開墾ヲ計畫サレテ居ル、此ノ開墾ノ中、東北、北海道等ニ於テハ、私事情ノ能ク存ジマセウガ、相當ノ有利ナ土地ハモウ既ニナイト思ハレ程有利ナ土地ハモウ既ニナイト思ハレ、隨テ將來ノ反當收量等ハ極メテ少イモノデアリナイカ、唯其ノ間ニ於テ干拓事業ハ相當有利デアル、其ノ干拓ノ點ニ付テ政府ハ特ニ力ヲ御用ヒニナル御意思ハナイカ、而モ承ル所ニ依レバ、之ヲ開發營團等ニヤラセルト云フ御方針ノヤウデアリマスルガ、五百町歩以上ノ耕地面積ヲ得ルノデナケレバ營團トシテハヤラナイ、ソレ以下ノモノハ誰ガヤルカ、恐ラクハ斯様ナ特殊ノ技術ヲ要スルモノヲ補助金等ニ依ツテ市町村ニヤラセヨウト云ツテ見テ

○鈴木(重)委員 尙ホ食糧ノ不安ニ付キマシテハ、私共唯耕地ノ擴張或ハ其ノ耕地ノ反當收量ノ増加ト云フヤウナ

モ、是ハ中々簡單ニ參ラナイ、此ノ干拓ニ關スルモノハ十町歩位ヨリ以上ハ總テ之ヲ政府事業トスルカ、或ハ開發營團ニ經營サセルカ等ノ方法ニ依ツテヤラセルノ御意思ハナイカ、此ノ點ニ付テ御伺ヒマス

○補見政府委員 干拓ノ問題デアリマスガ、御述ベニナリマシタヤウニ、山林原野ノ開墾ニ比較致シマシテ、干拓ガ極メテ有利デアリ、又此ノ點ニ相當力ヲ入レテ參ラナケレバナラヌト云フコトニ付テハ、全ク其ノ通りデアリマス、結局此ノ干拓ニ付キマシテハ、是モ御承知ノヤウニ、本年申ニ色々調査ヲ致シマシテ、明年カラ著手シ、約十萬町歩ヲ目途ニ計畫ヲ致シテ居ルノデアリマス、ソシテ此ノ干拓ノ主體トシテハ、決シテ農地開發營團ノミト限ツテ居ラナイノデアリマシテ、國營モ勿論考ヘテ居リマスシ、國營ノ場合ニ於テハ、現任内務省ナリ、或ハ運輸省方面デ持ツテ居リマス、技術力或ハ機械力ト云フモノモ總動員致シマシテ、此ノ方面ニ力ヲ注イデ參ルト云フコトデ、先般モ土地ノ開發ニ關スル緊急確保方策ヲ致シマシテ、閣議ノ御決定モ御承知致シマシテ、内務省ナリ、運輸省ナリ、農林省ナリ其ノ他ノ各方面ノ國ノ技術力ヲ之ニ集中シテ、出來ルダケ早ク此ノ實ヲ舉ゲル、斯ウ云フ方向ヘ進ンデ參ツテ居ル譯デアリマス、御話ノ如ク干拓ハ最も有望デアラウト思ヒマス、特ニ此ノ點ニ付テハ開拓局ニ於ケマシテモ力ヲ注イデ居ルヤウナ次第デアリマス

○鈴木(重)委員 尙ホ食糧ノ不安ニ付

キマシテハ、私共唯耕地ノ擴張或ハ其ノ耕地ノ反當收量ノ増加ト云フヤウナ

ルコト以上ニ、他ニ御計畫ガアツテ然

ルベキモノト思フノデス、ソレニ付テ先般新聞等散見シタルデアリマス、スルガ、戰時中陸軍ノ方ノ研究ニハ空氣中ノ窒素ヲ利用シタル化學食品、詰リ蛋白質源ヲ得シタルモノト思ハレマス、此ノ方面ニ對スル政府ノ御執リニハ御方針、或ハ研究ノ程度ガ何處マデ進ンデ居ルモノカ、斯ウ云フ點ニ付テ御伺ヒシタルデアリマス、尙ホ此ノ點ニ付テハ鈴木梅太郎博士ガ逝去セラレマス、數年前ノコトデアリマス、私共衆議院議員カ同博士ノ御講演ヲ承ツタデアリマス、博士自身トシテハ葉綠素ハ蛋白質源ノ最も重要ナルモノデアアル、自分ハ近ク之ヲ企業化シテ食糧ノ不足ヲ補ヒタイ、斯ウ云フヤウナ點ヲ講演ノ中ニ述ベラレテ居リマス、斯様ナル點ニ付テ政府ノ御考慮ノ御意圖ガナイカドウカ、要スルニ本ノ現在ノ食糧ハ極メテ將來ニ安定感ヲ持ツ感ジガスルデアリマス、經濟的ニ考ヘテ見マシテモ、今不適當ナル土地ヲ多ク開墾スルコトヲ考ヘマス、之ニ相當ノ補助ヲ與ヘ、或ハ其ノ他ノ資金ヲ融通スル等、相當ノ援助ヲ與ヘテ生産化セシメルコトハ、極メテ重要ダト考ヘマスガ、此ノ方面ニ對スル御所見ヲ伺ヒマス

○楠見政府委員 食料不足ノ現狀ニ對シマシテ、是ガ補給源ヲ凡ニル方面ニ求メナケレバナラヌコトハ勿論デアリマシテ、隨ヒマシテ一方ニ於テ土地カヲ増收ヲ期待スルト同時ニ、未ダ曾テ利用セナカッタ所謂未利用資源ト申シマス、斯ウ云フ方面ノ積極的ノ開發、更ニ色々御述ベニナリマシタヤウナ全然新シイ分野ニ於ケル化學的ノ研究、斯ウ云フ方面ニモ力ヲ注イデ參ラ

ナケレバナラヌト思フデアリマス、隨ヒマシテ我々現在食糧事情ヲ預ツテ居リマス、農林省ト致シマシテハ、御述ベニナリマシタヤウニ、各方面ノ資源ヲ、又各方面ノ研究ノ結果ナリ或ハ創意ヲ出來ルダケ多ク取入レテ、何トカシテ此ノ方面ノ未利用資源ニ依リ増加ヲ圖リタイト實ハ考ヘテ居ルノデゴザイマス、隨テ只今御述ベニナリマシタ空中窒素ノ問題、是モ御話ノ如ク陸軍ニ於テ研究ノ途ニアツタデアリマスガ、マダ其ノ確タル成果六得テ居ラナイデアリマス、之ニ對シマシテモ大臣自ラ色々是等ノ話ヲ聽キ、出來ルダケ此ノ實現ヲ冀ツテ居ルデアリマス、何分マダ成果ハ上ツテ居リマセヌシ、一面是等ノモノニ付テハ同時ニ或ル程度空腹感ヲ滿タス、單ニ實驗ノ結果蛋白質源ガ出來タ、榮養源ガ出來タト云フコトニナリマシテモ、同時ニ或ル程度空腹感ヲ滿タシ得ル體ノモノデナケレバナラヌト思フデアリマス、ソレ等ノモノヲ他ノドウ云フモノト一緒ニシテ食用ニ供スルカト云フコトモ、併セテ研究シナケレバナラヌ問題デアラウト考ヘテ居リマス、隨テ現在ハ例ヘバ木材ノ纖維素ヲ食糧化スルコトニ付テモ、現ニ研究ヲ進メテ居ルヨウナ次第デアリマス、勿論マダ此ノ工業化ト云フ所マデハ至ツテ居リマセヌガ、サウ云フ方面ニモ特ニ力ヲ入レテ居リヤウナ次第デアリマス、要シマス、面ノ食糧化ト申シマス、斯ウ云フ方

○鈴木(重)委員 只今御話ノ空腹感ヲ感ズルモノデハイケンイカラ、斯様ナ食糧ニ付テハ尙ホ是ノミデハイケンイナ御話デアリマス、御尤モデアリマスガ、大體日本人ノ食ベテ居リマス食糧ト云フモノハ、今ハ二合一勺デ、極メテ空腹感ヲ感ジテ居ルデアリマスガ、元來食糧ト云フモノハ、之ヲ外人等ノ食糧ニ比較スルト非常ニ多量ニ食シテ居ル、是ハ醫者ノ何レモ口ニ胃擴張ヲヤツテ居ル、殊ニ間食等ヲ多ク食シマスル者ハ、極メテ腸胃ニ障礙ヲ與ヘ易イト考ヘラレバデアリマス、五十歳頃ニナレバ大抵ハ胃腸病ノ爲ニ相當困難ノ狀態ニ陥ルデアリマス、斯様ナル點ヨリ考ヘマシテ、私共ハ量ト云フコトノミヨリモ、一面質ト云フコトヲ此ノ際食糧ニ付テハ考ヘナケレバナラナイ、是ガ極メテ重大ナコトデアル、現在聯合軍ガ進駐シテ參ツテ居リマシテ、彼等ガ食糧等ニ據ツテ居ル食糧ヲ見マスルト、其ノ量ト云フモノハ極メテ少イデアリマス、恐ラクハ私等ガ此ノ議員食堂デ食ベル所ノ一食分ニ相當スル程度ノ量デアリマス、唯其ノ間ニ於ケル榮養價値ハ極メテ大デアル、此ノ點デ考ヘマスレバ、我々ハ質ノ改善ヲ圖ルコトハ極メテ重要ナコトデアリマス、必ズシモ米ノ生産ト云フコトノミニ依存スルト云ヘバ、食糧問題ハ極メテ解決シキイガ、現在ノ食糧ヲ以テシテ之ニ更ニ質ノ改善ヲ以テ與ヘラバ、必ズシモ日本ノ食糧解決ノ問題ハソレ程困難ナ問題デハナイ、左様ニ私共ハ考ヘルデアリマス、殊ニ米ノミニ依存セズシテ、麥ヲ多量ニ生産スルト云フコトニナレバ、我が國ノ麥ノ生産ニ對シテハ前途極メテ有望ナル點ガアリマス、簡單ニ

増產ト云フモノガ出來ルデアリマス、指導宜キヲ得ルナラバ、ソレ程困難ナ問題デハナイ、更ニ最近ニ於ケル甘藷ノ増產ガ今日ノヤウナ趨勢デ進ミマスタラバ、是モ極メテ有望デアリマス、先程食糧計畫トシテ御述ベニナリマシタノ數字カラ考ヘマスルト、現在ノ日本ノ生産シ得ベキ麥ノ生産數量ハ遙カニ至大キナ數字ニ上リ得ル、更ニ甘藷ニ至ツテモ、驚クベキ龐大ナル數ヲ得ルデアリマス、隨テ之ニ對スル質ノ點ヲ今少シク考ヘマスナラバ、私ハ食糧問題ト云フモノニ對シテハ、直チニハ參リマス、將來ニ對シテハ相當ナ見込ヲ置キ得ルデアリマス、ソコデ問題ハ私ハ質ノ點ニアルト思フ、隨テ既ニ研究ガ遂ゲラレテ居ル管ノ鈴木博士ノ葉綠素ニ依リ蛋白質源ノ地方ノ實情ニ即應シテ規模ヲ決メテ居ルノデアリマス、隨テ最高ノ北海道ノ八町乃至十五町歩ト云フ所カラ、只今御述ベニナリマシタヤウナ一町程度ノ所マデ一應ノ基準トシテ決メテ居ルヤウナ次第デアリマス

○鈴木(重)委員 適正農家ノ基準ヲ定メラレルト申シマスル時ニハ、此ノ適正農家ナルモノハ、之ニ依ツテ大體生活ノ安定ヲ得ナケレバナラヌト云フコトハ當然ト思ヒマス、左様ニ考ヘマスルト、假ニ此ノ適正農家ノ面積ヲ左様ニ致セバ、アトニ殘ル所ノ農耕地ヲ以テ政府ハ現在ノ農村ノ農民、更ニ此ノ上ニ歸還兵其ノ他ヲ農村ニ於テ生活セシメヨウト考ヘラレバノダト存ジマスガ、ソレ程大シタル耕地ノ餘餘ハナイ、如何様ニシテ左様ナル者ニ職ヲ與ヘントスルカ、更ニ角政府ハ人口ノ再分配ヲ此ノ際農地調整法案ト共ニ御考慮ニナツテ居ルコトト考ヘラレマス、其ノ

人口ノ再分配ニ對スル政府ノ成案ヲ御伺ヒ致シマス

○補見政府委員 適正規模ノ問題ニ付

キマシテハ、只今申上ゲマシタヤウナ各地方毎ノ一應ノ基準ヲ作ツテ居リマシテ、出來ルダケ其ノ基準ニ近イヤウニ今後ハ指導シテ參ラナケレバナラヌト思フゾデアリマスガ、併シソレ以外ノモノニ付キマシテ、例ヘバ多數ノ復員軍人ナリ、或ハ其ノ他ノ人口ヲ農村ニ包容シテ行クト云フコトニナツテ參リマスルノ、勢ヒ新シイ耕地ヲ耕シ、更ニ又ソレ以外ニ於キマシテモ、農村ニ色々ノ工業ヲ起シマシテ、所謂農工協力ト申シマスガ、農工一體ト申シマスカ、農業ノ機械化ト申シマスガ、斯ウ云フ點ニ於テ相當ノ人口ノ包容力ヲ考ヘテ行クト云フヤウナ方向ニ進マナケレバナラヌト思フゾデアリマス、勿論考ヘ方トシテハ、農村ハ何デモ彼デモ此ノ人口ヲ包容スル、現在ノ此ノ限ラレタ耕地ニ包容スルコト云フコトデハゴザイマセヌデ、新シイ仕事、其ノ方面ニソレ等ノ人口ヲ包容シテ行ク、斯ウ云フヤウナ根本ノ考ヘ方テ進ムベキデアラウ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○鈴木(重)委員 只今ノ御答辭ニ依リ

マスレバ、現在ノ農地調整法ニ對シテハ、マダ人口再分配ニ對スル政府ノ方針ニ於ケル確タル案ノ御持合セガナイノデハナイカト考ヘラレルゾデアリマス、此處迄繼續シテ之ヲ掘下ゲテ御尋ネ致シテモドウカト考ヘマスルノデ、此ノ點ハ一應措キマス、私ノ考ヘニ依リマスルト、ドウモ今御答辭ニナリマシタヤウニ、現在ノ農地調整法案ノヤリ方デケデ以テ、現在ノ農村ニ於ケル所ノ農民、更ニ之ニ追加シ來ルベキ所ノ、今後農村ニ入ルベキ人口等ヲ考

ヘマシテ、何レニシマシテモ、今ノ農地調整法案ニハ更ニモウ少シ考慮ヲ拂フベキ必要ガアルゾデアリカ、先刻

同僚愛野君ヨリ質問致シマシタル森林組合ノ問題、詰リ山林等ヲ此ノ農地ノ中ニ加ヘテ、自作農等ニ對シテ相當ノ考慮ヲナスノ必要ガナイカト云フコトヲ考ヘルゾデアリマス、ソコデハ農業團體ノ構成ノ中ニ森林組合ヲ入レルカスレナイカト云フ點ト關聯致シマスルノデ、今ノ農地調整法ノ方ハ此處デハ一應質問ヲ止メマシテ、農業團體ニ森林組合ヲ入レルカドウカ、此ノ點ヲ御尋ネシタイ、昨日川俣君ノ質問ニ對シテ、森林組合ヲ農業團體ニ入レルコト云フコトヲ考ヘハナイト云フ御答辭デアリマシタ、今日モ森林組合ト云フモノハ入レルカ、現在ノ儲德行キタイト云フ御答辭ヲ繰返サレマシタ、是ハ何度御尋ネシテモ其ノ通りカト考ヘマスガ、之ヲモウ少シ考ヘテ見ルト、全國のニ考ヘテ見テ大キナ森林地帯ノ所ニ於テハ、成程森林組合ト云フノハ獨自ノ經濟獨立ツテ行クデアリマセウ、又森林組合ニシテ林業ヲ以テ生活シテ居ル人モ相當アリマセウ、併シ全國のニ考ヘテ見マスルト、森林組合ト云フモノハ各町村ノ單位團體ニ於キマシテハ、是ハ中々其ノ組合自體ノ經濟的ノ方面ニ於テ運営不可能ノ狀態デアリマス、隨テ何レカ今少シ財源ノアル方面ニ併合サレカ何トカ考ヘナケレバ、森林組合自體ハ遠カラズ自滅スル、サウデナケレバ組合員タルコトヲ組合員自體ガ極メテ嫌フゾデアリマス、サウ云フ運命ニ立至ル一方、此ノ農民側ニ於キマシテハ必ズ或ル程度ノ耕地ハ持ツテ居ツテモ、山林ニ接觸シテ居ル方面ノ農民ガ是非此ノ山林ノ

何程カラ所有スルコトハ、確カニ農家ノ生活ニ相當安定ヲ致シマス、薪炭ヲ得ルニ致シマシテモ、其ノ他何レニ致シマシテモ、此ノ山林ト云フコトノ必要ガアルゾデアリマス、殊ニ堆肥ヲ増産スル時ニ丁度牧野ガアルト同様ニ、此ノ山林ヲ必要トシ、或ハ自家用ノ薪炭ヲ得ルコト云フ方面ニモ利用ガアリ、或ハ耕地ト大ナレバ植林モ致スゾデアリマセウ、一例ヲ申シテ見マス、

長崎縣ノ壹岐郡デアリマス、壹岐郡ニ於テハ明治ノ初年マデ十年毎ニ耕地ヲ再分配ヲ致シテ、農民ノ生活安定ヲ圖ツテ來タ、斯ウ云フ特殊ノ所デアリマス、個々ノ經營トシテハ必ズ宅地ノ前ニ畑ヲ置キ、ソレニ接續スル所ノ土地ヲ耕地トシテ耕サシメ、其ノ宅地ノ裏ニ當ツテ必ズ適當ノ山林ヲ配置シテアリマス、極メテ私ハ用意周到ナル農民ニ對スル治績デアツタ、舊幕時代ノヤリ方ヲ稱讃シテ居リマス、サウ云フ點モアリマス、隨テ土地ガ斯様ニ複雑デアレバアルダケ、斯クノ如キ地形錯雜ノ極メテ狭小ナ土地ニ住スル農民ノ爲ニ、林業ト云フモノヲモ加ヘテ考ヘスル農地法ガ我々ハ望マシノデアラ、大ナル平原ノアル所デケケ考ヘレバ、今ノ農地法案デ結構、大ナル林業ノ出來ル所デアレバ、森林組合結構デアリ、併シナガラ其ノ雙方ヲ除イタル後ノ大部、寧ろ私ハ全國のニ考ヘマスナラバ、此ノ森林ト耕地トヲ結付ケテ考ヘルコトノ出來ル小農民ト云フモノハ極メテ多イデアラウト思ヒマス、其ノ比率ヲ私ハ持チマセウガ、兎ニ角ハ我々ガ机上デ想像シテモ當然ダト考ヘルゾデアリマス、隨テ此ノ農地問題ニ付テ必ズ森林ヲモ之ニ加ヘテ或ル程度ノコトヲ調査シテ行クト云フコトガ一

ツノ希望デアリマスガ、此ノ點ニ付テ一ツ御尋ネヲ致シタイ

更ニ此ノ森林組合ナルモノハ、今ノヤウナ意味ニ於テ、組合自體ノ經濟的方面ノ點ヨリ考慮致シ、更ニ小農民ノ經濟ヲ考慮スル點ヨリ致シマシテ、森林組合ナルモノヲ農業團體ノ中ニ包含セシムル、斯ウ云フヤウナコトヲ御考ヘニナル譯ニハ參リマセウカ、更ニ之ヲ御尋ネ致シマス

○補見政府委員 農家ノ生活ヲ維持シ

テ行ク上ニ薪炭林ト申シマスガ、サウ云フヤウナモノヲ設置スル必要ガアル、斯ウ云フヤウナコトヲ中心トシテ第一ノ御話デアリマスガ、新ラシク土地開發ヲ致シマスル百五十町歩ノ開發計畫ニ於キマシテハ、勿論耕地ト有畜農業並ニ薪炭林、斯ウ云フヤウナ組合ヲ考ヘテ參ツテ居ルノデスガ、既存土地ニ付テノ問題ニ至リマシテハ、極メテ重大ナ問題デアリマスノデ、尙ホ能ク研究サシテ戴キタイト存ズルデアリマス、森林組合ト農業會ノ關係ニ付キマシテハ、今日ノ情勢ニ於テ如何カ、唯其ノ間ノ連繫ト云フコトニハ、勿論十分ノ力ヲ入レテ實ハナケレバナラヌト思ヒマスガ、一般的ニ農業會ガ森林ノ事業マデモヤルト云フヤウナ考ヘ方ニ付キマシテハ、只今ノ所之ヲ致シテ居ラナイゾデアリマス、唯山寄地帯ニ於ケル森林ト農業ノ關係、此ノ點ニ付テハ十分連繫ヲ考ヘテ參リタイト思ヒマス、御趣旨ノ點ハ能ク拜聴致シマシタノデ、尙ホ今後ノ研究ニ御任セ願ヒタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス

○鈴木(重)委員 家畜保險組合、農業

保險組合、此ノ二ツノ保險組合ハ、ヤハリ森林組合同様地方ニ依リマシテ、多クハ其ノ經濟的ノ關係ヨリ致シマシテ、獨立のニ存在スルコトハ極メテ困難ナルモノデアリマス、現在ニ於キマシテモ、家畜保險ト云フノハ郡單位デ之ヲヤツテ居ルヤウデアリマスガ、此ノ地域ニ於キマシテ之ヲヤルト云フコトハ極メテ困難ナル、私此ノ家畜保險ヲ一時擔當シテ居ツタコトガアリマスガ、政府筋ヨリ話ヲ伺ツテ見テモ、全國のニ極メテ經濟困難ダ、斯ウ云フゾデアリマス、農業保險ニ致シマシテモ、大體單獨行クコトガ困難ナル爲ニ、多クハ郡道府縣ノ農業團體ニ大體合併シテ居ルヤウナ姿ヲ持ツゾデアリマス、尙ホ會長等ノ選舉ノ關係等ヨリ致シマシテ、是ガ別個ノ世帯ヲ持ツコトニ相成リマス極メテ經濟困難デアリマス、本省ニ於ケル立場ハ異ツテ居リマスケレドモ、末端デハ家畜保險並ニ農業保險ト云フモノハ、ヤハリ農業團體ト共ニ行クコトガ極メテ經濟的デアリ、人的資源ニ於テモ互ヒ相融通スルノ途ガ開ケ、極メテ便宜デアリマスガ、之ヲ農業團體ニ包含セシメテ將來經營スルノ途ヲ御開キニナル御意思ハアリマセウカ

○補見政府委員 家畜保險或ハ農業保

險組合ノ經營ガ、非常ニ困難デアルト云フコトヲ中心トシテノ御話デアリマスガ、是ハ御承知ノヤウニ、例ヘバ家畜保險組合ヲ郡單位ノ組合ニ致シマシタノハ、一面ニ於テ此ノ保險事業ヲ致シマスルト同時ニ、一面保險ヲ通ジテ色々衛生指導ヲヤツテ行クト云フヤウナ指導ノ方面ノコトモ考慮ニ入レテ、郡單位ノ組合ガ出來タノデアリマス、是等ノ事業ニ付キマシテハ、是モ御承知ノヤウニ、國ガ再保險ヲ致シテ居ルゾデアリマス、結局結論トシテ組合ノ經營ガ困難デアルト云フコトハ、保險

料率ノ問題ガ一番大キナ問題デハナイ
カト思フノデアリマス、組合ガヤツテ
行ケル程度ノモノニ致シマスルト、結
局保險料金ヲ高クシナケレバナラヌ、
サウナツテ参リマスルト、直接ノ家畜
飼養者ナリ或ハ農家ナリト云フモノ
ガ、相當大キナ負擔ニナル譯デアリマ
ス、是等ノ觀點カラ、出來ルダケ保險
料率ヲ安クスル、同時ニ國家ガ再保險
デ以テ或ル程度ノ「カバー」ヲスルト云
フヤウナコトニナツテ居ルノデアリマ
ス、ソコデ農會トノ合體ノ問題デア
リマスガ、ソレ等ノ根本ノ事業ガ變
革ヲ見マセヌ限リハ、ヤハリ農會ニ
包含セラレマシテモ、同様ナ問題ガ殘
存スルモノト思フノデアリマス、隨テ
是等ノ點ニハ根本ノ考慮ヲ要スル點
ガアラウト思ヒマス、ソレハソレト致
シマシテ、農業保險ノ事業或ハ家畜保
險ノ事業ト云フモノヲ農會ニ包含ス
ルト云フ方向ニ付テハ、私ハ將來ハサ
ウ云フ方向ニ進ムベキモノデアラウ、
斯様ニ考ヘテ居リマス

最モ農會ノ忙シイ時期ニ、此ノ保險問
題デ數多ノ人ヲ動員シナケレバナラヌ
ト云フ不便ナ點デアリマス、更ニ其ノ
事務ノ煩瑣ナ點デアリマス、サウシテ
其ノ上ニ農業保險金ガ交付セラル、コ
トガ實ニ遲レルノデアリマス、一年經
ツテ昨年ノ保險金ガ尙ホ今ニ渡ラナ
イ、現在長崎縣ニ於キマシテハ、昭和
十九年ノ保險金ガ、私ガ上京スルニ至
ルマデ尙ホ政府ノ方ヨリノ送金ガナイ
ノデアリマス、隨テ一時立替トシテ、一
時借入金ヲ議決シテ交付スルト云フヤ
ウナ手續ヲ執ルト云フ、始末デアリマ
ス、兎ニモ角ニモ、此ノ農業保險ノ負
擔金ガ存在スル限リ、町村農會ト云
フモノハ、經濟部ノ收益ノアルモノハ
兎ニモ角ニモハ恐ラクハ他ノ指導方
面ノ活動モ、總テノ方面ニ於テ活動ハ
一切出來ナイト云フノガ現状デアルト
私ハ申シテ宜イと思フ、此ノ際農業保險
ト云フモノニ對シテハ、寧ロ廢止ヲ希
望スル者サヘアルト云フ情勢デアリマ
スカラ、此ノ農業保險ニ對スルモウ少
シ根本的ナ改正ヲ私ハ要望シタイノデ
アリマスガ、政府ハ斯様ナル點ニ付テ
御認メニナツテ居ルカドウカ、更ニ之
ニ對スル改正ノ御意思ヲ持ツテ居ラレ
ルカドウカ、此ノ點ヲ御伺ヒ致シマス
○補見政府委員 農業保險制度ヲ創設
致シマスマデニハ、多年農民側カラノ
猛烈ナル要求ガゴザイマシテ、此ノ制
度ヲ政府トシテ採用スルニ致リマスマデ
モ、尙ホ七、八年ノ年月ヲ要シテ諸般
ノ準備ヲ整ヘテ、此ノ制度ヲ施行スル
コトニナツタノデアリマス、結論ト致
シマシテハ、結局先程申上ゲマシタヤ
ウナ危險率ノ算定、竝ニソレニ付保
險料金ノ問題、是ガ一番大キナ問題デ
アリマス、普通ノ營業保險ノヤウナ建

前デ参リマス、結局農家ノ負擔ト云
フモノハ、現在以上ニ相當甚ダシクナ
ルノデアリマシテ、隨テ國家ガ或ル程
度ノ負擔ヲ持ツテ、一般農家ノ負擔ヲ
輕減シテ居ル、斯ウ云フ情勢ニナツテ
居ルノデアリマス、唯此ノ保險ヲ實施
シテ参リマス上ニ於テ色々ナ手續ガ掛
リ、又色々保險金ノ交付ノ時期ガ遅
ルト云フヤウナ點ニ付キマシテハ、御
話ノ如キ事例モ絶無トハ申サレナイ
思フノデアリマス、結局ハ組合ナリ
或ハ政府ニ於キマス手續ガ遅レルト
云フヤウナ點デアラウト思フノデアリ
マシテ、是等ノ點ニ付テハ十分改善ヲ
スベキコトデアラウト存ジテ居リマ
ス、同時ニソレ以外ノコトニ付キマシ
テモ、保險ガ眞ニ企圖致シマス目的ヲ
達成致シマスヤウニ、改善スベキ點ハ
今尙ホ研究ヲ重ネテ参リタイ、斯様
ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○鈴木(重)委員 農業保險ハ保險法改
正ノ當時、東北地方ノ冷害或ハ關西方
面ノ稻熱病、之ヲ是非取上ゲテ戴キタ
イト云フコトガ委員總テノ希望デアツ
タノデアリマス、色々ト是ニハ理
由ガアツテ遂ニ之ヲ採擇シナイト云フ
コトデアリマシタ、併シ若シ此ノ冷害
竝ニ稻熱病等ヲ此ノ保險ヨリ除外シテ
ノ保險法デアラナラバ、私ノ考ヘル限
リ此ノ農業保險ハ撤廢サレガ此ノ際
宜イノデアリナイカ、斯ウ云フ氣持ヲ持
ツテ居リマス、ドウゾ此ノ點ニ付テ政
府ノ方ニ於テハ更ニ御研究ヲ御願ヒ致
シテ置キマス

且ツ廢擦ガアツテ極メテ遺憾ノ點ガ多
イノデアリマス、本會議或ハ他ノ委員
會ニ於キマシテ、此ノ指導方面ニ付テ
ハ之ヲ市町村長ノ方ニ指導權ヲ移スヤ
ウニト云フヤウナ意見モ出タヤウデア
リマスガ、現在ノヤウニ農業團體法案
ニ既ニ指導ニ關スル施設ヲ設ケテアリ
マス以上ハ、私ハ府縣ハ計畫、指導ノ
面ニ於テ、政府ノ意ヲ體シテ農業團體
ニ向ツテ指導ヲ監督ヲ致スト云フコト
ニ止メ、最下部ノ指導ハ總テ農業團體
方面ニ一元的ニ之ヲやらセル、斯様ナ
方法ニ御改メ下サルナラバ、總テノ點
ニ於テ極メテ能率ノデアリ、又人的方
面ニ於テモ極メテ經濟ノデアリマス、
現在ノヤウナ二元的ノ行キ方ハ決シテ
執ルベキデナイト感ズルノデアリマ
ス、之ニ對スル御所見ヲ伺ヒマス
○補見政府委員 指導事業ノ一元化ノ
問題デアリマスガ、御答ヘヲ致シマス
前ニ、私共農業團體ノ問題ニ付テ、斯
様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレハ
現在ノ農業團體ノ指導事業ト經濟事業
ヲ分離スベシト云フ議論モ一部ニアル
ノデアリマス、ソレニ對シテ我々ハ現
在ノ情勢ニ於キマシテハ、經濟事業ト
指導事業ハ分離スルコトガ出來ナイ、
寧ロ分離スベカラザルモノデアルト考
ヘテ居ルノデアリマス、隨テ今後ノ農
業團體ハ少クモ經濟事業ト指導事業
トヲ併セ並行シテ、其ノ事業ノ中樞ノ
仕事トシテ進シテ參ルト云フコトニ方
向附ケタイト考ヘテ居ルノデアリマ
ス、サウ致シマス、結局只今御尋ネ
ノ行政官廳ノ指導ト農會ノ指導ト云
フ關係ハ、只今申上ゲマシタ我々ノ農
業團體ニ對スル考ヘ方ヲ以テ律シマス
レバ、當然ソレニ結論ガ出テ參ルト考
ヘテ居ルノデアリマス、即チ行政官廳

ニ依リ指導ハ、一般ノ大綱ト申シマス
カ、大キナ方針ト申シマス、サウ云
フ大綱ノ指導ニ止メテ、實際ノ指導ハ
專ラ農會ノ方々ニ當ツテ戴クト云フ
方向ニ進ムベキデアラウト考ヘテ居ル
次第デアリマス

○鈴木(重)委員 次ニ市町村ト云フ農
業單位團體ニ付テノ質問ヲ致シタイノ
デアリマスガ、現在ノ市町村農業團體
ニ於テノ指導、其ノ指導部ト云フモノ
ノ經濟ハ極メテ困難デアリマス、恐ラ
クハ若シ指導部ダケガ分離シテ居ルト
シマスナラバ、其ノ經濟ハ形式ダケ
ニ止マル仕事デナケレバヤツテ行ケナ
イ、其ノ原因ハ何處ニアラカト言ヘバ、
即チ農業保險ノ負擔ガ極メテ多額ニ上
ルカラデアリマス、今日恐ラクハ全國此
ノ農業保險ノ負擔ノ爲ニ、農業保險ノ
存續ヲ望ム者ハ私ハナイト考ヘル、農
業保險ノ一番農民ニ歡迎セラレナイ點
ハドウ云フ點カト云フト、此ノ負擔ノ
大キイト云フコトデアリマス、第二ハ

最後ニ農業團體ト府縣方面ニ於ケル
指導ノコトデアリマス、指導事
業ノ一元化ヲ圖ラナケレバ、現在ノ如
キ二元的ノ指導ヲ致シマスコトハ、地
方ニ於テハ其ノ指導方針モ一定セズ、

午後二時十四分開議
○川崎委員長 只今ヨリ午前引續キ
開會致シマス、委員諸君ニ申上ゲマス、
此ノ委員會ハ御存ジノ通り四ツノ法案
ヲ併シセラレテ居ルノデゴザイマス、
即チ第一ハ農業團體法中改正法律案、
第二ハ水産業團體法中改正法律案、第
三ハ戰時森林資源造成法中改正法律
案、第四ハ蠶絲業法中改正法律案、此
四ツノ法案ヲ併シセラレテ居ルノデゴ
ザイマス、隨テ政府側ニ於キマシテ
ハ、此ノ四ツノ法案ニ對スル當該當局
ノ方ガ答辯ノ爲ニ出席シテ居ラレマ
ス、只今マデ、昨今兩日主トシテ農業
團體法中改正法律案ノ御質問ガゴザイ
マシタガ、是モ尙ホ續ケマスケレドモ、
同時ニ其ノ他ノ三ツノ法案ニ付テモ一
ツ混ゼセゼニ御質問願ヒマス、此ノ
コトヲ申上ゲマシテ、通告ノ順序ニ依
リマシテ、只今ヨリ大石大臣ニ御質問
ヲ願ヒマス

○大石(大)委員 農林大臣見エヌデセ
ウカ
○川崎委員長 大石君カラ內務大臣、
司法大臣ノ出席要求モゴザイマシタガ、
兩大臣御見エニナル機會ガゴザイマセ
ヌ、農林大臣ニ付テハ今交渉シテ見マ

午後零時六分休憩

三三

スカラ、其ノ他ノ政府委員ニ對シテ御
質疑ノ點ガアラバ、其ノ點ヲ今御シヤ
ツテ下サルヤウニ願ヒマス

○大石(大)委員 ソレデハ政府委員ニ
御尋ネヲ致シマスル事項ノ付テ質問
ヲ致シマス、政府ハ曩ニ新聞ニ發表致
シテ居リマスガ、概テ一元化ヲヤル、
一定ノ場所ニ概テ運搬シテ、ソコデ脱
穀ヲヤル、斯ウ云フコトガ新聞ニ發表
サレマシタガ、ソレハオヤリニナルコ
トニナツテ居ルノデセウカ、ソレヲ先
ヅ伺ヒマス

○梶見政府委員 概テ一元化ニ付キ
マシテハ、實ハ食糧管理法ノ第九條ニ
於キマシテ、概ノ加工ニ關スル制限ノ
規定ガアルノデアリマスガ、ソレニ基
キマシテ、食糧管理法施行規則ニ、只
今御述べニナリマシタヤウナ概テノ制
限ノ問題ヲ新タニ加ヘタノデアリマ
ス、此ノ概テノ問題ハ、生産量ノ明確
ニシ、又戰時中ニ於キマシテハ、寧ロ
勢力ノ節約ト云フヤウナコトカラ致シ
マシテ、更ニ又機械化、電力化ト云フ
ヤウナ點カラモ致シマシテ、色々ス
ウ云フ問題ガアツタノデアリマスガ、
食糧管理法ニ強化シテ參リマスル今
日ノ實情カラ致シマシテ、先程申上
ゲマシタヤウナ法律ノ規定ニ基キテ、今
般施行規則ヲ改正スルト云フコトニナ
ツタノデアリマス、其ノ内容ハ、農
業會ナリ、農事實行組合、或ハ地方長
官ガ指定致シマスル概テ業者、斯ウ云
フヤウナソレトノ概テ所ニ於キマシ
テ共同概テヲ行テ行ク、尤モ地方ノ實
情ニ依リマシテ、サウ云フヤウナモノ
モナイト云フ場合ニハ、適宜ノ方法ヲ
地方長官ニ於テ請ジサセル、斯ウ云フ
風ニ、大體地方ノ實情ニ即シタ方針デ
以テ概テノ統一ト云ヒマスカ、制限ヲ

考ヘテ居ル次第デゴザイマス
○大石(大)委員 地方ノ情勢ニ依リマ
シテ左様ナ方法ヲ執リマスコトガ、或
ハ概テノ能率増進トモナルカモ知レマ
セヌガ、先ヅ四國方面ノコトヲ申上
ゲヨウト思ヒマスガ大體農民ノ際ハ非常
ニ之ニハ反對デアリマス、又寄リ
私共知合ノ議員ニ聽イテ見マシテモ、
同ジ聲ガアルノデアリマス、御承知ノ
通り農村ニハ小運搬ヲ致シマスノニハ
「リヤカー」ト云フ其ノ他ノ機械等モアリ
マスノデスガ、戰爭ノ爲ニ左様ナ物ガ
ナクナツテシマツテ居ル、此ノ概テ
一定ノ場所ニ運搬シテ更ニ又米ヲ持ツ
歸ラナケレバナラヌ、非常ニ手數ガ掛
リマスルト同時に、山村ナドニ參リマ
スナラバ、小サイ山ヲ越シテ向フニ持
ツテ行カケレバナラヌト云フ問題モ
起リハセスカト思ヒマス、サウ云フ
點カラ見マシテモ、私ハ甚ダ策ノ得
タモノデハナイ、斯ウ云フ風ニ考ヘ
マス、モウ一ツサウスルコトガ米ノ實
收ノ額ヲハツキリ算ムコトガ出來ル、
一定ノ場所ニ概テ運搬セマシテ概テ
ハ、サウスルナラバ何ガシト云フモノ
ハ法定ノ保有米ハ是シカナイ、ソレ
ダケ殘シテアトハ管理ニスルト云フ
コトニナリマスレバ、海ニ便利デセウ、
併シナガラ農林大臣ガ機會アル毎ニ、
米ノ供出ハ農民ノ同胞愛ニ憑ヘテ極メ
テ圓滿ノ間ニ、寧ロ農民ノ自主的ニ供
出ヲ望ム、從來ノ如キ強權ノ發動ハ一
切シナイ、斯ウ言ハレテ居ル、海ニ米
ノ供出ニ一段ト民主性ヲ加味シタ志デ
アリマシテ、私共喜ンデ居ルノデアリ
マスルガ、今ノ此ノ一元化ヲヤツテ管
理米ヲ確保スルト云フコトハ、農林大
臣ノ御話ト少シ違ハヒマス、非常ニ
官僚的ナ獨善的ナ老ヘ方デハナイカ、

斯ウ思フノデアリマス、今一般農民ノ
考ヘ方ハ、戰爭中トハ變ツテ居リマス、
ソコヘ持ツテ來テ概テ一定ノ場所ニ持
ツテ來サセル、サウシテ其處デ概テラシ
テ管理米ヲ確保スルト云フヤウナ方法
ニ出マス、非常ニ私ハ供出ノ成績ガ
悪クナリハシナイカ、斯ウ云フコトヲ
心配スルノデアリマス、サウシテ又成
程強權ノ發動ハシナイ、警察權ノ發動
ハスシマセヌガ、ソレヨリモモウ少シ
上手ニサウスル力カ云フモノヲ後
ノ方ニ引込メテ置イテ、サウシテ否應
ナシニ取上ゲテ行ク、斯ウ云フ風ニ農
民ガ望ム、斯ウ云フコトヲ考ヘル時
ニ同胞愛ニ憑ヘテ供出サセルコトト、
此ノ概テノ一元化ト云フ政府ノ趣旨ト
ハ非常ニ開キガアル、隨テ農民ノ感情
ヲ非常ニ惡クシテ、是カ延イテ増進意
欲ノ減退トナリ供出ニ對スル惡意ガナ
クナルノデアリマス、政府ノ御所見
ハドウデアリマスカ

○梶見政府委員 概テ今回ノ制限ニ
依リマシテ、個々ノ農家ガ非常ニ手數
ガ掛ルデハナイカト云フコトヲ中心ト
シテノ御話デゴザイマスガ、實ハ從來
モ此ノ巡回概テ業者ト申シマスカ、斯
ウ云フヤウナ機關カ個々ノ農家ニ廻ッ
テ居ツタ事トモアリノデアリマシテ、
農事實行組合等ニ於テ新タニサウ云フ
設備ヲ設ケル所ハ別デアリマスガ、サ
ウデナイ所ハ、勿論農事實行組合ガ設
ケルト云フ場合モ、是レハ組合員ハ
協同デ以テサウ云フ新シイ機械ヲ購入
シ、又ハ概テヲ實施スル課デアリマス
ガ、サウ云フ課デ付テ居ラナイ所、
即チ個々ノ農家ニ廻ル所ニハ、從來ノ
巡回致シテ居リマシタ概テ業者ヲ地方
長官ニ於テ指定スル、斯ウ云フコトニ

ナル譯デアリマシテ、只今御話ノ如ク
一山越エテ米ヲ持ツテ行ク、又概テラシ
タモノヲ持ツテ歸ルト云フヤウナ、農
家ニ著シク手數ガ掛ルト云フヤウナコ
トハ、極力避ケナケレバナラヌト思フ
ノデアリマス、ソレカラ概テノ問題ト
同胞愛ニ憑ヘテ供出責任トノ問題デ
アリマス、是ハ矛盾スルノデアリマス
ト云フヤウナ御尋ネデアリマスガ、
實ハ此ノ概テノ問題ニ付キマシテ
ハ、色々從來カラ生産量ニ對スル農
民ノ報告ト云フモノ、又之ヲ供出
セシメル方面ニ於キマスル其ノ希望
ト云フ點ニ於テ、實收高ヲ中心ト致
シマシテ、色々紛爭ノアリマシタコ
トハ御承知ノ通りデゴザイマス、隨
テ斯ウ云フ點ニ付テハハツキリトシ
タ基礎ノ上ニ於テ、お互ヒガ話合ツタ
方ガ宜イノデアリマス、生産量ガ一
方デハアルト云ヒ、一方デハナイト云
フ、結局現實ノ問題トシテハ中々ソレ
ガハツキリ致シマセヌ爲ニ、お互ヒガ
却テ迷惑ヲ生ズルト云フヤウナ事態モ
少クナカツタノデアリマス、隨テサウ
云フ點ハハツキリシテ、其ノハツキリ
シタ基礎ノ上デ話合ヒスルト云フコ
トガ、色々ナ弊害ヲ生ジナイ本デハナ
イカト云フヤウナコトヲ考ヘテ居ルノ
デアリマス、勿論之ニ依ツテ從來ノヤ
ウナ風ニ官僚的ニ此ノ事ヲ考ヘテ居ル
ト云フヤウナコトハ毛頭ナイノデアリ
マス、寧ロ只今申上ゲマシヤウニ、實
體ヲハツキリトシテ、其ノハツキリシ
タ實體ノ上ニ於テ、お互ヒニ能ク話合
ヒ、又農林大臣ガ豫メノ言ハレテ居
リマスヤウニ、此ノ食糧事情ノ下ニ於
テ、農家ノ同胞愛ニ憑ヘテ供出ヲシテ
戴カウト云フ點トハ矛盾セズニ、寧ロ
サウ云フ意味ニ於テ此ノ問題ヲ考ヘテ

參リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマスノデ、
左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス
○大石(大)委員 サウ致シマス、
從來ノ如ク概テ業者ト云フモノガ機械
ヲ背負ツテ戸々ヲ廻ツテ行クコトモ御
認メニナルノデアリマスカ

○梶見政府委員 ソレハ地方長官ニ於
テ指定スル概テ業者ト云フ言葉ヲ食糧
管理法施行規則ノ中ニ載ツテ居ルノデア
リマスガ、是ハ從來ノ業者ヲ地方長官
ニ於テ指定スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ
居リマス

○大石(大)委員 指定スルコトハ分リ
マシタガ、一定ノ場所ニ持ツテ來ナク
トモ、各農家ニ就テ其ノ業者ガ背負ツ
テ行クコトハ差支ヘナイノデスカ

○梶見政府委員 御話ノ通りデアリマ
ス

○大石(大)委員 一定ノ場所ニ集メマ
シテ概テ場合モアラウト思フノデアリ
マスガ、ソレハ總テ生産量ヲハツキ
リト算ムコトガ趣旨ダト仰セラレマス
ト、其ノ數量ノ報告ト申シマスカ、ソ
レ等ハ概テ業者ガ附クノデアリマス
カ、誰カ監督ガ附クノデアリマス
○梶見政府委員 是ハ御承知ノヤウニ
各市町村ニハ食糧検査員ト云フ者ガ居
リマス、其ノ實體ニ付キマシテハ、食
糧検査員ガ之ヲ認定スルト云フコトニ
ナラウカト存ジテ居リマス

○大石(大)委員 地方木材會社ガ總テ
ノ木材ヲ採ツテ居ルノデアリマスガ、
此ノ木材會社ノアルガ爲ニ、モウ植林
ハシナイト云フヤウナ聲モ相當高イノ
デアリマス、例ヲ申シマス、軍需品
ヲ採出シタノデアリマスガ、公定價格
デ山主ガ賣ル、サウシテ採出ガ非常ニ
急ヲ要スルモノデアリマスカラ、總テ
ノ運賃ガ關デアル、サウシテ今度山主

○梶見政府委員 是ハ御承知ノヤウニ
各市町村ニハ食糧検査員ト云フ者ガ居
リマス、其ノ實體ニ付キマシテハ、食
糧検査員ガ之ヲ認定スルト云フコトニ
ナラウカト存ジテ居リマス

○大石(大)委員 地方木材會社ガ總テ
ノ木材ヲ採ツテ居ルノデアリマスガ、
此ノ木材會社ノアルガ爲ニ、モウ植林
ハシナイト云フヤウナ聲モ相當高イノ
デアリマス、例ヲ申シマス、軍需品
ヲ採出シタノデアリマスガ、公定價格
デ山主ガ賣ル、サウシテ採出ガ非常ニ
急ヲ要スルモノデアリマスカラ、總テ
ノ運賃ガ關デアル、サウシテ今度山主

○梶見政府委員 概テ一元化ニ付キ
マシテハ、實ハ食糧管理法ノ第九條ニ
於キマシテ、概ノ加工ニ關スル制限ノ
規定ガアルノデアリマスガ、ソレニ基
キマシテ、食糧管理法施行規則ニ、只
今御述べニナリマシタヤウナ概テノ制
限ノ問題ヲ新タニ加ヘタノデアリマ
ス、此ノ概テノ問題ハ、生産量ノ明確
ニシ、又戰時中ニ於キマシテハ、寧ロ
勢力ノ節約ト云フヤウナコトカラ致シ
マシテ、更ニ又機械化、電力化ト云フ
ヤウナ點カラモ致シマシテ、色々ス
ウ云フ問題ガアツタノデアリマスガ、
食糧管理法ニ強化シテ參リマスル今
日ノ實情カラ致シマシテ、先程申上
ゲマシタヤウナ法律ノ規定ニ基キテ、今
般施行規則ヲ改正スルト云フコトニナ
ツタノデアリマス、其ノ内容ハ、農
業會ナリ、農事實行組合、或ハ地方長
官ガ指定致シマスル概テ業者、斯ウ云
フヤウナソレトノ概テ所ニ於キマシ
テ共同概テヲ行テ行ク、尤モ地方ノ實
情ニ依リマシテ、サウ云フヤウナモノ
モナイト云フ場合ニハ、適宜ノ方法ヲ
地方長官ニ於テ請ジサセル、斯ウ云フ
風ニ、大體地方ノ實情ニ即シタ方針デ
以テ概テノ統一ト云ヒマスカ、制限ヲ

考ヘテ居ル次第デゴザイマス
○大石(大)委員 地方ノ情勢ニ依リマ
シテ左様ナ方法ヲ執リマスコトガ、或
ハ概テノ能率増進トモナルカモ知レマ
セヌガ、先ヅ四國方面ノコトヲ申上
ゲヨウト思ヒマスガ大體農民ノ際ハ非常
ニ之ニハ反對デアリマス、又寄リ
私共知合ノ議員ニ聽イテ見マシテモ、
同ジ聲ガアルノデアリマス、御承知ノ
通り農村ニハ小運搬ヲ致シマスノニハ
「リヤカー」ト云フ其ノ他ノ機械等モアリ
マスノデスガ、戰爭ノ爲ニ左様ナ物ガ
ナクナツテシマツテ居ル、此ノ概テ
一定ノ場所ニ運搬シテ更ニ又米ヲ持ツ
歸ラナケレバナラヌ、非常ニ手數ガ掛
リマスルト同時に、山村ナドニ參リマ
スナラバ、小サイ山ヲ越シテ向フニ持
ツテ行カケレバナラヌト云フ問題モ
起リハセスカト思ヒマス、サウ云フ
點カラ見マシテモ、私ハ甚ダ策ノ得
タモノデハナイ、斯ウ云フ風ニ考ヘ
マス、モウ一ツサウスルコトガ米ノ實
收ノ額ヲハツキリ算ムコトガ出來ル、
一定ノ場所ニ概テ運搬セマシテ概テ
ハ、サウスルナラバ何ガシト云フモノ
ハ法定ノ保有米ハ是シカナイ、ソレ
ダケ殘シテアトハ管理ニスルト云フ
コトニナリマスレバ、海ニ便利デセウ、
併シナガラ農林大臣ガ機會アル毎ニ、
米ノ供出ハ農民ノ同胞愛ニ憑ヘテ極メ
テ圓滿ノ間ニ、寧ロ農民ノ自主的ニ供
出ヲ望ム、從來ノ如キ強權ノ發動ハ一
切シナイ、斯ウ言ハレテ居ル、海ニ米
ノ供出ニ一段ト民主性ヲ加味シタ志デ
アリマシテ、私共喜ンデ居ルノデアリ
マスルガ、今ノ此ノ一元化ヲヤツテ管
理米ヲ確保スルト云フコトハ、農林大
臣ノ御話ト少シ違ハヒマス、非常ニ
官僚的ナ獨善的ナ老ヘ方デハナイカ、

斯ウ思フノデアリマス、今一般農民ノ
考ヘ方ハ、戰爭中トハ變ツテ居リマス、
ソコヘ持ツテ來テ概テ一定ノ場所ニ持
ツテ來サセル、サウシテ其處デ概テラシ
テ管理米ヲ確保スルト云フヤウナ方法
ニ出マス、非常ニ私ハ供出ノ成績ガ
悪クナリハシナイカ、斯ウ云フコトヲ
心配スルノデアリマス、サウシテ又成
程強權ノ發動ハシナイ、警察權ノ發動
ハスシマセヌガ、ソレヨリモモウ少シ
上手ニサウスル力カ云フモノヲ後
ノ方ニ引込メテ置イテ、サウシテ否應
ナシニ取上ゲテ行ク、斯ウ云フ風ニ農
民ガ望ム、斯ウ云フコトヲ考ヘル時
ニ同胞愛ニ憑ヘテ供出サセルコトト、
此ノ概テノ一元化ト云フ政府ノ趣旨ト
ハ非常ニ開キガアル、隨テ農民ノ感情
ヲ非常ニ惡クシテ、是カ延イテ増進意
欲ノ減退トナリ供出ニ對スル惡意ガナ
クナルノデアリマス、政府ノ御所見
ハドウデアリマスカ

○梶見政府委員 概テ今回ノ制限ニ
依リマシテ、個々ノ農家ガ非常ニ手數
ガ掛ルデハナイカト云フコトヲ中心ト
シテノ御話デゴザイマスガ、實ハ從來
モ此ノ巡回概テ業者ト申シマスカ、斯
ウ云フヤウナ機關カ個々ノ農家ニ廻ッ
テ居ツタ事トモアリノデアリマシテ、
農事實行組合等ニ於テ新タニサウ云フ
設備ヲ設ケル所ハ別デアリマスガ、サ
ウデナイ所ハ、勿論農事實行組合ガ設
ケルト云フ場合モ、是レハ組合員ハ
協同デ以テサウ云フ新シイ機械ヲ購入
シ、又ハ概テヲ實施スル課デアリマス
ガ、サウ云フ課デ付テ居ラナイ所、
即チ個々ノ農家ニ廻ル所ニハ、從來ノ
巡回致シテ居リマシタ概テ業者ヲ地方
長官ニ於テ指定スル、斯ウ云フコトニ

○梶見政府委員 是ハ御承知ノヤウニ
各市町村ニハ食糧検査員ト云フ者ガ居
リマス、其ノ實體ニ付キマシテハ、食
糧検査員ガ之ヲ認定スルト云フコトニ
ナラウカト存ジテ居リマス

ニ金ヲ拂フ時ニハ逆算シテ持ツテ來マスカラ、甚ダシイ例ハ、山ヲ賣リマシテ自分ノ手ニ入ツタノハタツタ四百二十圓、所得稅ハ二千五百圓位、斯ウ云フモノガアリマス、サウ云フ譯デ地方木材會社ニ對シマシテハ一般ノ植林者、山村ノ農民ハ非常ニ反感ヲ持ツテ居ル、斯ウ云フコトガアリマシタノデ、如何ニ伐ツタ跡ハ植林ナド督勵致シマシテモ、思フヤウニ成績ガ惡ラスト思フ、聞ク所ニ依リマスレバ、斯ウ云フ統制會社ハ廢止サレルヤウナコトヲ聞クノデアリマスガ、政府ノ方ニ何カサウ云フ御諮議ガアルノデアリマスカ

○黑河內政府委員 戰時中ノ非常伐採ノ過程ニ於テ只今御示ノヤウナ事例ガ甚ダ多ク、殊ニ山元ニ於ケル立木ノ價格ガ非常ニ安クナツタコトヲ我々モ聞イテ居リマスノデ、此ノ度ノ價格改訂ニ於ケマシテハ、ソレ等ノ點モ考慮致シマシテ、物價ノ趨勢ニ應ジテ當然立木所有者ガ享受シ得ベキ立木價格ト云フモノヲ確保スルヤウニ致シタイモノト考ヘマシテ、左様ナ見地カラ此ノ度價格改訂ヲ致シタ譯デアリマスガ、地方ノ狀況ニ依リマシテハ、尙ホソレヲ以テ不十分ナ點ガアルカモ知レマセヌケレドモ、大體サウ云フ風ナコトヲ目標トシテ、價格改訂ヲ致シ次第デアリマス、尙ホ地方木材會社ノ將來ノ問題ニ付キマシテハ、只今ノヤウナ點カラ致シマシテ、地方木材會社ニ對シテ、色々非難ヲシテ居ル向モ聞及ンデ居ル譯デアリマスシ、又他ノ面カラ色々風評ノアルコトモ聞イテ居リマス、其ノ中ニ全部ガ全部地方木材會社其ノモノノ實ニ歸スベキモノデナクテ、只今モ大石サン 御話ニナリマシタヤウニ、非常ノ措置ノ爲ニ輸送其ノ他ニ非常ナ

入費ガ掛ツタト云フヤウナ事情ノ爲メ、山元ニ迷惑ヲ掛ケタ、其ノ結果ガ地方木材會社ノ不當ノ處置ト云フ風ニ誤解サレタ爲ニ起ツテ來テ居ル風評モアリマセウシ、又我々ノ聞及ンデ居ル所ニ依ルト、軍需優先ノ爲ニ一切ノ民需ヲ斥ケテ、是ハ又統制規則カラ言ハカ當然ノ施策デアツタノデアリマスガ、サウ云フコトノ爲ニ、地方木材會社ニ對シテ色々批評ヲ受ケテ居ルコトモ聞イテ居ル譯デアリマス、固ヨリ其ノ外ニ地方木材會社自體ノ内部ノ色々ナ事務上ノ關係其ノ他カラ思ハザル迷惑ヲ國民ニ掛ケテ居ルノモアルト思ヒマス、ソレ等ノ點ハ色々木材會社ノ事情ニ依ツテモ違フト思ヒマス、是等ノ處置ニ付キマシテハ、今度ノ統制規則ノ改正ニ依ツテ、地方ノ狀況ニ應ジテ、價格ヲ一元化シテ參リマス、其ノ爲ニ却テ生意氣欲ヲ落シ、或ハ又地方ノ必要ナ方面ニ對スル供給ガ不圓滑ニナルト云フヤウナコトガアリマシテハト存ジマシテ、地方長官ニ於テ地方ノ實情ニ即スルヤウニ處置シテ貰フヤウニ一應改正シテ居ル譯デアリマス、今後ノ處置、即チ更ニ一段ト進ンデ地方木材會社ノ處置ニ付キマシテハ、尙ホ能ク考慮致シマシテ、地方ノ實情ニ即スルヤウナ處置ヲ執リ遺憾ナキヲ期シテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○大石(大)委員 適地適作ノコトニ付キマシテ、午前中角君カラ御尋ネガアツタヤウデアリマスガ、此ノ生産統制ト云フモノハ、今後モマダ續ケテ行カレル積リデアリマスガ、近ク御止メニナルカ、ソレヲ先ツ承認ツテ置キタイ

○楠見政府委員 生産統制ト申シマスカ、所謂綜合作付割當ノ問題デアリマ

スガ、此ノ點ニ付キマシテハ、此ノ食糧事情ガ窮迫シテ居リマス現在ノ情勢ノ下ニ於ケマシテハ、尙ホ今後モ繼續シテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○大石(大)委員 私人御尋ネ致シタイノハ、割當モアリマス、高知縣ノ事ノミ申上ゲテ洵ニ恐縮デスケレドモ、高知縣ハ米ガ足ラヌデ相當農林省ニ今度アタリモ御迷惑ヲ申込ンデ居ルト思ヒマスガ、御承知ノ通り、高知縣ハ從來二期作ヲヤツテ居リマス、私共青年ノ當時ハ百姓ヲシテ居リマシタガ、其ノ時分ニハ一期作ニ適當スル稻ヲヨウ發見シナカツタ、ソコデアリマシタ作リマシテ晚稻ヲヤツテ居リマス、所ガ三年ニ一過カ五年ニ一過カハ、アノ季節ノ颱風ニ襲ハレマシテ收穫皆無ダツタ、ソコデアリマシタ研究ヲ致シマシタ結果、是ハ衣笠早稻ト云フモノヲ發見シタ、云フ人ガ發見シタモノデアリマス、七月頃ニ總ガ出テ熟レル、ソレヲ氣遣ヒ總ト稱シテ居リマスガ、之ヲ色々配合ヲシテ七月中ニ收穫ノ出來ルノ衣笠早稻ヲ排ヘテ、爾來二期作ニナツタ、所ガ森田トカ云フ農業課長ガ來ラレテ、此ノ高知縣ノ平野ニハ晚稻ヲ作ツテ麥ヲ作レバ一舉兩得デアル、而モ此ノ早稻ヲ晚稻ニ變ヘルナラバ十萬石ノ増產ガ出來ル、斯ウ香川縣ト比較シテノ話デ、ソコデ、農民側ハ反對シタ、是ハ永イ間ノ經驗デ、晚稻ハ宜イ場合モアルガ三年カ四年ニハ必ず一過種レヌ、之ヲ以テ反對シタ、所ガ、沖野知事ガ見エテ之ヲ強行シヨウトシテ、晩稻ニ變ヘタガ宜イカドウカト云フノデ審議會ヲ作ツタ、其ノ審議會ハ篤農家、百姓、農業會長、町村長會長デアアルトカ云フヤウナ人ガ入ツテ、遂ニヤル

コトニナツテ縣令ヲ發布シタ、所ガ其ノ縣令ヲ出シテ強行シタ年カラ今年ニ掛ケテ三年間種レタ、今年ハ皮肉ニモ早稻ハ非常ニ良カツタ、漸ク私共ガ知事ニ交渉シテ、三割ダケハ二十年度ニ作ラサウト云フコトニナツテ作ラセタ、其ノ三割ハ大豐作、ケレドモ是ガ三萬五千町歩ノ水田ノ中タツタ三割デスカラ一万二千町歩、アトハ全部晚稻、所ガ本年ハ二度トモヤラレマシテ、御承知ノ通り皆無デアル、洵ニ甚ダシイノハ安藝郡ト云フ郡ノ百姓共ハ、如何ニ縣令ガ出テモ作ラナイ、晚稻ハヤラナイ、皆一緒ニ入ラウ、此處マデ決心シテ早稻ノ苗代ヲ作ツタ譯デアリマスガ、巡查ガ苗代ヲ切ツテシマツテ、ヤハリ晚稻ヲ作ラシタガ、是モ皆無デアル、ソニデ郡民ガ憤慨シマシテ、地方事務所ニ押掛ケテ行ツタ地方事務所ノ責任ヲ問ウタ、事務所長ハ何處カヘ逃ゲタ、其ノ急報ニ接シマシ知事ガ駭付ケテ行キマシテ、平謝マリニ謝マツテ其ノ場ハ濟ンダ、其ノ知事ハ今厚生省ニ來テ居ル、斯ウ云フヤウナ譯デアリマシテ、何ト云フ種類ヲ作レト云フヤウニ作付ヲ統制セラレマス、農民ハソコニチツトモ自主的ナ工夫モセナケレバ、創意モナクナツテシマフ、隨テ生産意欲ガナクナルノデアリマシテ、是ガ非常ナ減產トナリ、又是ガ供出ノ不成績トナルノデアリマス、高知縣ノヤウナ、云フ一種變シタ風土氣象ノ所ヘ、他カラ持ツテ來ラレマシテ、自分ノ經驗ヲ其ノ儘活カシ得ヌヤウナコトヲ強ヒルガ如キハ破棄スベキコトダト思ヒマス、其ノ意味ニ於ケマシテ私ハ此ノ作付統制ニ對シテ御尋ネシタ譯デアリマス、ドウカ今後ハサウ云フ無理ノナイヤウニ願ヒタイ、ヤハリ地方

ニハソレデケノ理由ガアツテ、永イ間ノ百姓ノ經驗ニ依ツテヤツテ居リマスカラ、其ノ經驗ヲ活カシテ行ク、體驗ヲ活カシテ行クト云フコトニ御考ヘテ願ヒタイ、是ハ三年間種レズンデ農林省ニハ二十萬石以上モ御厄介ヲ御願ヒ申シテ居ル關係上申ス譯デアリマ

ソコデ私ハ第二御尋ネシタイト思ツテ居リマシタケレドモ、此ノ點子デハ何時大臣ガ來ラレルカ分リマセヌノデ、事務當局ノ方ニ御尋ネシタイ、併シ事務當局ノ方カラドウ云フ御答ヘヲ受取リマシテモ、實ハ失禮デスガ納得出來スト思ヒマスカラ、此ノ際政務次官ノ方ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、私ノ御尋ネ致シマスノハ、地租法ノ第七十條ノ第二項ニ規定セラレテ居リス、此ノ永小作權ガドウ云フ沿革ト又ドウ云フ歴史ヲ持ツカト云フコトハ申上ゲマセヌ、之ヲ申上ゲマスト相當時間ヲ要シマスノデ之ヲ省キマスガ、要スルニ此ノ舊慣タル永小作權ト云フモノハ、永小作權者タルモノハ祖先ニ之ヲ受ケテ所有スル不動產ダト、自分デハサウ云フ觀念デアリマス、其ノ通りデアリマス、元々民法ニ所謂永小作權トハ全然性質ヲ異ニスルモノデアリマス、主トシテ開墾ニ依ル土地デアリマス、海政ノ時分ニ於ケマシテハ、開墾ノ土地ヲ拂下ゲマシテモ、ヤハリ門地門閤デナケレバ開墾土地ノ拂下ハ出來ナカツタ、ソコデ百姓ハ門地門閤ノ名前ヲ借りテ開墾土地ノ拂下ヲ受ケテ、自己ノ勞力ト資金デ開墾シタモノデアリマス、是ハ先刻御承知ノ通りデアリマス、サウシテ名義料トシテ僅カノ米ヲ益若シクハ節季ニ持ツテ來テ居ッ

タ、所ガ明治七年ノ地租改正ノ時ニ、
政府ガ地券ト云フモノヲ發行シタ、所
ガ政府ニ引續ギマシタ所ノ土地權帳ト
云フモノハ舊主ノ大名ノ時ニヤッタ
デ、藩主ガ持ツテ居ツタ、藩主ノ所デ
ハ其ノ土地ノ名義ハ即チ門地門開ノモ
ノニナツテ居リマシタ百姓ノモノデハ
ナイ、ソコデ地權ハ名前ヲ貸シタ人ノ
方ニ行ツテシマツタ、サウシテ之ヲ奇
貨トシテ名前ヲ貸シテ居ツタ者ハ俺ノ
所有權ダト言ヒ出シタ、其ノ時ニ訴訟
ヲ起シマシタ所有權ヲ獲得シタ者モア
リマスガ、何ト云ツテモ封建ノ因襲
紛々時代デ、多クノ豪士トカ御用商
人トカ云フヤウナ者ニ對シマシテ訴訟
ナシカヨウシナ、サウシテ他ニ擔保
ニ入レルトカ譲渡ストカ、相續スル
カ云フ場合ニ名前ノ切替ヲシテ居ラヌ
ノデアリマス、其ノ都度イハ五升上ゲ
ヨウ、三升上ゲヨウト云フノデアツタ
ガ、所謂永小作料ヲ引上ゲルコトトシ
テ大抵三、四斗、五斗上ゲタ、是全
國のニサウデアリマス、所ガ是ガ民法
ノ發布ニ依リマシテ、所謂民法ニ謂
ハレル永小作トナツテシマツタ、民法ノ
永小作權ハ御承知ノ通り設定行爲ニ依
ルノデアリマスガ、是ハ設定行爲デハ
ナイ、元々サウ云フ關係カラ來テ居ル、
所ガ民法ニ依リマスト、永小作權ノ期
限ハ五十年トナツタノデアリマスカ
ラ、斯ウ云フ性質ヲ持ツテ居ル永小作
權ハ、其ノ民法ニ依ツテ支配セラレタ
大變デアリマスカラ、ソコデ民法施行
法ノ第四十七條ニ規定セラレタノデア
リマス、四十七條ノ第三項ヲ設ケタノ
デアリマス、是ハ明治三十一年ノ民法
發布ノ時ニ問題ガ起リマシテ、私共マ
ダ未成年ノ時代デアリマシタクレド
モ、此ノ運動ニ參加シタノデゴザイ

マス、民法施行法ノ四十七條ノ第三項
ニハ「民法施行前ニ永久存續スヘキモ
ノトシテ設定シタル永小作權ハ民法施
行ノ日ヨリ五十年ヲ經過シタル後一年
内ニ所有者ニ於テ相當ノ價金ヲ拂ヒテ
其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者
ハ此權利ヲ拋棄スルハ一年内ニ此ノ權利
ヲ行使セサルトキハ爾後一年内ニ永小作
人ニ於テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ
買取ルコトヲ要ス」斯ウナツテ居リ
マス、其ノ五十年ガ明後年ニナツテ居
ルノデアリマス、昭和二十二年ノ七月十
日デ期間ガ満了スル、是ハ第五十一條
會以來問題ニナツテ居テ、第五十一條
會ノ若槻内閣ノ濱口大藏大臣ガ租稅ノ
改革ヲヤツタ、其ノ時ニ二百圓以下ノ
自作農ハ免稅スルコト云フ制度ヲ設ケ
タ、所ガ此ノ永小作權者ハ稅ヲ納メ
コトニナツテ居ル、總テノ公課ヲ負擔
シテ居ル、是ガ按ケテ居ル、ソレデ私
ヨリ之ヲ質問致シマシテ、色々ノ論争
ノ結果、今ノ町田忠治君ト、原備次郎
君トガ、私ト大臣ノ間ニ仲裁ニ入ツテ
ハツト法律案ヲ作ツタ、其ノ法律案ガ
今ノ地租法ノ第七十條ノ二項デアリマ
ス、第五十一條會當時ハ地租條令ガナ
カツタカラ、大正十五年法律第七十號
ハ單獨法デ永小作權ヲ認メタ、今度地
租條令ガ廢止ニナツテ地租法ガ出來タ
時ニ、其ノ儘其ノ法文ヲ現在ノ七十二
條ニ入レテアル、之ニ依ツテ自作農ヲ
生ミ出シタ、前者ニ於テ此ノ永小作
權ガ自作農ニナツテ居ル、其ノ後此ノ
作スルト云フ意思ガアルナラバ、地
主ハ拒ムコトガ出來ナイト云フ改正法
律案ヲ提出シタノデアリマスガ、是
モ衆議院ハ通過シタガ、貴族院ノ方デ
間ヘタ、所ガ町田農相ノ時代ニ小作法

ヲ出サレタ時ニ、是ト並行致シマシテ、
永小作權整理要綱ト云フモノヲ作ラレ
タ、是モ議會ニ出スニ至ラズシテ終ッ
タ、其ノ後起ツタ問題ハ、現在ノ農地調
整法デアリマス、是ガ有馬農相時代ニ
井野君ガ次官ノ時ニヤラレタ、ソコデ
此ノ永小作權ガ問題ニナツタ、委員會デ
ハ農地調整法ヲ修正致シマシタ、
民法施行法第四十七條ノ第三項ノ規定
ガアルノデカラ、五十年ノ期間ガ満了
ノ時ニ永小作權者ガ繼續シテ耕作サス
ル意思ガアル時ニ於テハ、地主ハ之ヲ
拒ムヲ得ズト云フ條項ヲ加ヘルト云フ
修正ヲ提出シタ、所ガ其ノ時ニ有馬氏
ハ明年必ズ單獨法ヲ出スカラ、是ハ無
修正デ通過シテ吳レト云フコトデ、委
員會ニ於テ承諾シタノデアリマス、所
ガ翌年ハ又那事變トナリマシテ、事變
後マデ待つテ吳レト云フコトデ、今日ニ
ナツテ居ルノデアリマス、此ノ永小作
權者ハ一ツノ自作農デアリマス、所ガ
今日ノ時勢カラ申シマスルナラバ、五
十年ノ曉ニ地主ニ取ラレタル三項ガ
ヒメセガ、民法ノ四十七條ノ三項ガ
嚴シシキテ居ル間ハ不安ニ堪ヘマ
セヌ、ノミナラズ銀行トカ、サウ云フ
機關ニ擔保ニ入ツテ居ツタ、所ガ段々
ト期限ガ切迫シテ參リマシタカラ、銀
行ハ擔保ニ取ラヌ、非常ニ安クナツタ、
斯ウ云フ譯デアリマシテ、マア、昭和
二十二年ノコトデアルカラ、サウ急ガ
ナクテモ宜イト何時モ言ハレルコトデ
アリマスガ、不安デ色々ノ面ニ支障ガ
起ツテ居ル、今日自作農創定ニアレ
力ヲ入レテ居ルノデアリマスガ、此ノ
永小作權ハサウ云フ歴史ヲ持ツテ居
マスルシ、サウ云フ沿革ヲ持ツテ居
ルノデアリマスカラ、此ノ際農林當局ノ
方ニ於キマシテハ、ドウ云フ御考ヘデ

アルカ、勿論此ノ法ノ改正ハ司法省ニ
屬シマセウガ、司法省ト其ノコトヲ今
御話ニナツテ居ルカ、又之ヲ近クナサ
ルカドウカト云フコトヲ一ツ聽キタイ
ト思ヒマス
○紅露政府委員 御答ヘ致シマス、大
石委員カラ續キ御述ベニナリマシタ
民法施行法第四十七條ノ永小作權ニ付キマ
シテハ、政府ニ於テモ決シテ無關心デ
屬ル譯デアリマセヌ、然ラバ今後如
何ナル措置ヲ執ル積リカト云フヤウナ
御尋ネデアリマシタガ、無論此ノ法律
ノ改正ヲ致スト致シマスレバ、管轄
デアル所ノ司法省ノ所管ニナリマス
ガ、沿革ト云ヒ、其ノ他色々御述ベニ
ナリマシタ事情カラ致シマシテ、政府
ト致シマシテハ永小作權ノ消滅ノ時期
マデニハ、必ズ責任ヲ以テ司法當局ト
モ十分連絡ヲ取リ、出來ルダケ速カニ
成案ヲ得マシテ、是ガ取扱ニ付テハ遺
憾ナキコトヲ期シタイト考ヘテ居リマ
ス、尙ハ御述ベニナリマシタヤウナ御
趣旨ニ付キマシテハ、十分考慮ニ入レ
マシテ研究スルコトニ致シタイ、斯様
ニ存ジテ居リマス
○大石(大)委員 大體申シマスルナラ
バ、今度ノ農地調整法ノ改正ノ際ニ、
是ハドウシテモ機達マナクテハナラヌ
性質ノモノダト思ヒマス、固ヨリ民法
ノ問題デアリマスルケレドモ、ドウシ
テモ此ノ農地制度ノ斯クノ如キ法案ガ
出來マス時ニ入ルベキ管ニナツテ居
タモノガ一時延ビタノデアリマス、其
ノ委員會ニ於テ何ヒタイノデアリマス
ケレドモ、私ハ委員デアリマセヌカ
ラ其ノ委員會ニ於テ發言ノ機會ハア
リマセヌガ、モウヤヤント調査ハ濟ン
デ居ル、是ハ山本第二郎君ガ農林大臣
ノ時ノ問題デ、砂田重政君ガ參與官デ

アリマシタガ、當時全國ノ永小作權ノ
整理要綱ヲ拵ヘル爲ニ、私委員ニ頼
マシテ、其ノ當時農林省ニモ行ツタ
ノデアリマス、又裁判所ノ方ニ行キマ
シテモ、特ニ高知縣ガ是ハ一番多イノ
デアリマスカラ、司法省ノ指示ニ依リ
マシテ、堀ト云フ裁判所長カラ特ニ私
ニ話ガアリマシタ、ソレデ裁判所ニ於
キマシテ、斯ウシタ沿革デアルト云フ
コトヲ話シマシテ、向フハ之ニ付テノ
「パンフレット」モ作りマシタ、其ノ後
此ノ永小作權ニ付キマシテハ、司法省
デモ出シテ吳レルカモ知レナイ、殊ニ
大森ト云フ人が次官ノ時ニ必ズヤルト
云フノデ調査モ出來テ居ツタ、サウ云
フヤウニ準備ガ出來テ居ツタノデア
リマスカラ、ドウカ無理ハ申シマセヌ
ガ、此ノ機會ニ現在審議中ノノ調整
法ニ一項ヲ加ヘテ實行コトガ出來マ
スナラバ、殆ニ結構ト思ヒマス、是ハ希
望トシテ申上ゲテ置キマス
ソレカラハ是ハ内務大臣ニ御尋ネス
ル積リデゴザイマスケレドモ、事農村ニ
關スルコトデゴザイマスカラ、アナ
タノ所管デハナイカモ知レマセヌガ、
皆迷ツテ居リマスノデ御伺ヒ致シマ
ス、是ハ事農當局ノ方デモ結構デゴザ
イマスガ、實ハ先月ノ十九日ニ高知縣
ノ長岡都長岡村ニ一ツノ災害事件ガ起
キタノデアリマス、御承知ノ通り土佐
ニハ「アメリカ」軍ガ上陸スルト云フ
デ、而モ又一番嚴倉トモ言ハレル平野
ニ上陸スルト云フコトデ、平野一面背
面ノ山岳ニ對シマシテモ處大ナル防備
ヲヤツタ、隨ヒマシテ終戦トナリマス
ト、兵器彈藥ト云フモノガ澤山アル、
ソコデ長岡村ト云フ所ニ海軍ノ通信隊
ガアリマシテ、是ガ此ノ近傍ノ砲彈ヲ
集結シテ山ノ如ク積上ゲタ、迎モ廣イ

所ニ澤山積上デタ、ソレヲ勤勞奉仕ニ依リマシテ分解シマシテ、火藥六穴ヲ掘リマシテソレニ入レル、之ヲ毎日ヤツタ、其ノ日モ監督ト稱スル者ガ來テ、其ノ日ノ勤勞奉仕ニ來マシテ何十人カノ人間ニ、其ノ砲彈ノ解體並ニ彈藥火藥ノ運搬ト云フコトヲサセテ居ツタガ、其ノ監督ノ人ガ脇ニ行ツテシマツタ其ノ間ニ、奉仕ニ來タ者ガ無暗ニ入レ始メタノデ、其ノ近傍ノ野良デ仕事ヲシテ居リマシタ農民共ガ聲ヲ擧ゲテ之ヲ制止シタ、其ノ制止ト同時ニ一ベシニ火ガ燃エ上リマシテ、數日來アノ廣イ面積ヲ火藥ヲ據イデ來ル間ニアチコチニ落チテ居タ爲ニ一面ニ天ニ沖スル火ガ揚ツタ、五町位距テテ麥時ヲシテ居ツタ者ガ、其ノ火ノ立ツタ方ニ向イテ居ツタ爲ニ其ノ頬ガ燒ケテ居リマシタ、是ハ大變ダト云フノデ、皆壕ノアル者ハ防空壕ヘ入ル、或ハ木ノ根ニ隠レ、或ハ川ニ入ツテ身體ヲ伏セル、サウ云フヤウナ譯デ人畜ノ死傷ハ——死シタ者ハアリマセヌガ、負傷者ノ數ハ澤山アル、所ガソレガ遂ニ分解ヲセナイ砲彈ニ移ツタモノデアリマスカラ、ドン／＼爆發スル、午前ノ十時カラ晩ノ十時過マデ、砲彈ガ四方八方ニ飛ブ、全變シテ跡形モ無イ家ハ十五、六軒デアリマス、半壊ハ一里四方ニ及ンデ居リマス、建具ガナタナツタ、天井ガ飛シタト云フモノハ一里四方ノ、殊ニ彈丸ガ西南ニ向イテ居ツタサウデアリマスカラ、西南ニ向ツテ彈丸ガ三里位飛シテ居ル、大砲ノ彈丸ガ飛シテ來テ、梁ナリ柱ナリトクカラ忽チ度レル、ソレカラ全部燒ケテ跡方モナクナツタ家ハ僅カ八軒デスガ、何分ニモ海軍ノサウ云フ施設ガアリマスカラ、戰爭中ハ幾ラカ食糧ナリ衣類等

ガ疎開シテアリマシタガ、終戦ニナツテ皆持ツテ歸ツタ、ソレガ火ガ揚ルト皆避難シテ彈丸ガドン／＼來ルモノデスカラ何モ出スコトガ出來ナイイデ丸燒、又稻ハ刈ツテ田圃ニ置イテアツタガ皆燒ケテシマツタ、サウシテ其ノ附近ノ田ハモウ硝子ノ割レサント砲彈ノ破片デ埋マツテシマツタ、桑園ハ皆燒ケテシマツタ、斯ウ云フ譯デ非常ニ慘憺タル情勢デアリマス、ドウ云フモカ所轄ノ警察デハ巡査部長ガ二名來タダケデ、誰モ來ナイ、實ハ私モ家ノ飛シタ被害者ノ一人デアリマスガ、進駐軍ニ話シテ見ルト、進駐軍ハ全部海底ニ沈メテ處理スルコトニシテ居ツタ、所ガ日本ノ政府ガ眞鍮ノ冶金ガ欲シイカラ吳レト言フノデ任セタ、ダカラ俺等ノ責任デハナイト云フ話デス、縣ノ方デモ一向責任ガナイ、兎ニ角斯ウ云フ大キナ災害ガ起ツタノデアリマスカラ、皆責任ヲ回避シテ居ル、一體是ハ何處ニ責任ガアルカ、其ノ責任ノ所在ヲ伺ヒタイノガ要點デ、内務大臣ニ伺ヒタイノデアリマスガ、内務大臣ガ居ナケレバ國務大臣トシテ御答ヘテ願ヒタイト思ヒマス、急ヲ要スルノデアリマスカラ、何トカ之ヲ救済ノ途ハナイモノデアアルカ、縣ニ行クト戰爭中ナラバ被災者救済デ行クガ、戰爭ガ濟ンデシマツタカラ駄目ダト言フ、災害ノ跡ニ「バラック」ガ建ツテ居ルガ、坪七百圓、私ガ見積ツタ所「バラック」同様ノモノヲ建ツテモ百万圓ヤソコラデハ出來ヌ、壞レタ坪數ガハツキリシマセヌシ、私モ僅カ三日シカ其處ニ居リマセヌカラ調ベガ付イテ居リマセヌガ、是ハ皆叩カレ損、戰ニ勝タウト思ツタアノ邊ノ百姓ガ盛ニ鐵砲ノ彈丸ヲ運シタガ、今度其ノ彈丸デ皆ヤラレタ、

是デ非常ニ憤慨シテ居ル、是ガ此ノ儘顧ミラレナイナラバ米ノ供出ハシナイ、米ハ作ラヌト言ツテ居リマスガ、ソレガ相當廣イ範圍ニ五ツテ居リマス、百姓ノコトデアリマスカラ、農林省ニ於テモ何カ御心配願ヒタイト思ヒマス、一體是ハ何處ニ責任ガアリマスカ

○紅霧政府委員 御答ヘ申上ゲマス、大石委員カラ今色々御述べニナリマシタ高知縣ニ於ケル災害ニ付キマシテハ、私モ初メテ承知シタノデアリマスガ、ドウモ事ノ起リガ假令人爲上ノ取扱ヒノ粗漏ノ點ニアツタト致シマシテモ、其ノ起ツタ災害ニ付テ、殊ニ其ノ被害者ニ取ツテハ自然災害ト略々同様ニ考ヘテ然ルベキデナイカトモ思ハレルノデアリマス、併シ唯自然災害ト同様ニ扱ツテ然ルベキカドウカト云フコトニ付テハ、是レ亦重大ナ問題デアルト思フノデアリマス、ソコデ此ノ措置ヲドウスルカト云フコトニ付キマシテハ、ドウモ是ハ内務省デ御取扱ニナルノガ當然カト思フノデアリマシテ、唯其ノ結果ガ農作物ニ被害ガ及ンダト云フノデアツテ、是ガ措置ハ寧ろ内務省當局ノ御取扱ニナルベキモノデナイカ、斯様ニ考ヘマス

○大石(大)委員 私モサウ思ツテ、今朝カラ内務大臣ノ御出席ヲ要求シテ居リマスカレドモ、見エナイヤウデスカラ、御參考マデニ思ツテ申上ゲタ次第デス

○紅霧政府委員 尙ホ私ノ方カラ内務省ノ方ヘモ連絡ヲ取リマシテ、御質問ノコトニ付キマシテハ御答申上ゲルヤウニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○大石(大)委員 午前中ニ鈴木君ノ質問ノ中デ、適正規模ノ御尋ネラシタヤウデアリマスガ、之ニ對シマシテ、事務當局カラ御答辯ヲ得テ居リマシタ、御承知ノ通り復員或ハ在外同胞ノ歸還並ニ都市等ヨリノ疎開等ニ依リマシテ、農村ニハ段々ト人口、戶數ガ殖エツ、アルノデアリマス、又今後モ殖エル情勢ニアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソコデ適正規模ニ付キマシテハ、地方々々ニ於テ其ノ反別ガ違フヤウデアリマスガ、四國地方デ見マスト一町五反歩ト云フヤウニ新聞デ見マシタガ、現在ノ四國地方ニ於ケルマスト一戸當リノ耕作面積ハ七反位デアリマス、サウシマスト、之ヲ政府ノ考ヘテ居リマス通り一町五反ト云フ農家ガ出來ルト致シマスト、半分ガ何處カヘ分付シナケレバナラヌ、或ハ農ヲ廢メナケレバナラヌ、終戦前マデハ滿洲ニ對シテ隨分分付ヤリマシタガ、今後ハ行先ガナクナツテ居リマス、適正規模ヲヤレバ勢ヒ農家ノ戶數ヲ減ラサネバナラヌ、何處ヘ持ツテ行クカ、之ニ對シマシテ御計畫ガアルナラ伺ヒタイト思ヒマス

○楠見政府委員 自作農創定ノ場合ノ適正規模ト致シマシテ、一應北海道カラ九州ニ亘ルマデノ間ニ於テ、畑作、或ハ水田、或ハ一毛作、二毛作、都會ノ周邊ト云フヤウナ、色々ノコトヲ考慮致シマシテ、一應ノ標準ハ、只今御述べニナリマシタヤウニ四國デハ一町五反ト云フヤウナ基準ヲ決メテ居ルノデゴザイマス、隨テ出來ルダケ斯ウ云フ標準ニ付キマシテ考慮シテ參リタイト考ヘテ居リマスガ、一面只今御述べニナリマシタヤウニ、今後ノ復員、或ハ歸還、更ニ又人口増ト云フヤウナコトカラ考ヘテ參リマスト、唯理窟通リ

ニ之ヲ考ヘテ參リマスト、今御述べニナリマシタヤウナ事態ガ懸念セラレタル譯デアリマス、隨テ理想ト申シマスガ、一應ノ標準ハサウ云フ所ニ置イテ居ルノデアリマスガ、農村ニ於ケル現在ノ人ノ包容力ヲドウ云フ風ニ活カシテ行クカト云フコトニナツテ參リマスト、是モ午前中ニ申上ゲタノデアリマスガ、出來得ル限り農村ニ於テ他ノ機械力ナリ工業力、或ハ電化ト云フヤウナモノヲ取入レマスト同時ニ、農作物ノ加工ニ付テ、之ヲ高度化シテ行クト云フコトニ依ツテ、結局農村ノ經營ヲ多角化シテ參ル、之ニ對シテ人口ノ包容力ヲ増シテ行ク、標準トシテハ先程申上ゲタ通りデアリマスガ、假ニ其ノ標準ニ達セナクテモ、今申上ゲマシタヤウナ方途デ以テ多角化シテ參ル、ソレニ依ツテ人口ノ包容力ヲ維持シテ參ラウ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○大石(大)委員 一應ハ左様ニ受取レルノデアリマスガ、併シ實際問題トシテ、私ノ村ハ皇國農村トシテ、模範村トシテ適正規模ヲヤツタノデアリマスガ、少クトモ政府ノ欲スル適正規模通リニヤリマスト、五百戸何處カニ行カナケレバナリマセヌ、ソレガ間ヘテ今困ツテ居リマス、恐ラク私ハ四國アタリノ情勢カラ見マスルナラバ、何ト申シマシテモ百姓ハ半分廢メナケレバナラヌ、百戸アル戶數ハドウシテモ五十戸ニシナケレバナラヌ、其ノ五十戸ガ農村工業化ニ依ツテソレダケノ過剰ノ戶數ヲ消化シテ行ク、ソレデ又生活ガ安定シテ行カレル、一應書面ノ上デハサウデアリマスガ、實際ハ出來ヌト思フ、サレバコソ是マデハ多ク滿洲ノ方ヘ行ツタ、又或ハ北海道其ノ他ニ餘地

ガアルカモ知レマセケレドモ、アノ一昨日カ新聞ニ出タ通りノ適正規模デアリマス、一體現在ノ農家戸數ガ幾ラ位ニ縮マルノデアリマセウカ、概括ノ數字ガゴザイマスレバ伺ヒタイと思ヒマス

諸君ニチヨット申上ゲテ置キタイコトガアリマス、今ヨリ約二十分位ノ後選舉法中改正法律案ガ委員會ガ終ツテ本會議ニ廻ルサウデス、是ハ今回提出サレタ政府ノ重要法案ノ中ノ最も重要ナモノデ、開院式ノ御勅語ニモ特ニ名指シテサレテ居ルノデゴザイマスカラ、本議場ニ皆様ガオイデ下サルコトモ結構デアルトと思ヒマス、デソレマデノ間此處ノ御問應答ヲ續ケマス

○大石(大)委員 簡單ニ御尋ネ致シマス、サウスルト適正規模ヲ實現スルナラバ、農家戸數ガ現在ヨリ減ルト云フコトハ御考ヘニナツテ居ラレマスネ

○楠見政府委員 現在ノ狀態デ、先程申上ゲタヤウナ色々ノ手段ヲ講ゼズ、現在ノ儘デ參リマス、結局人口ヲ減ラサザルヲ得ナイト云フ結果ニナラウト思ヒマス

○川崎委員長 尙ホチヨット申上ゲマスガ、大藏省カラ特ニ外資局長ガ見エテ、外國ニ於ケル邦人ノ資産ニ付テノ御尋ネニ對シテ答辯ヲ致シタイト云フコトデアリマス

○楠見政府委員 一應最高標準面積トシテ御示シテ居ルノデアリマスガ、之ニ依ツテ農家戸數ガレデケニナルカト云フコトニ付キマシテハ、只今其ノ資料ヲ持ツテ居ラナイノデアリマス、併シ現在ノ農村ノ全人口ノ産業別配分ト申シマス、農業ニ於テ包容シテ居マスル全人口ハ、農業ニ付キマシテハ四割 分ヲ包容致シテ居ルノデアリマス、更ニソレ以外ニ新シク御承知ノ土地開發ト云フコトニ依リマシテ、百万戸、一戸假ニ五人平均ト致シマス五百萬人ト云フモノガ今後包容セラレベキ人口デアラウト思フノデアリマス、ソコデ然ラバ現在ノ四割三分ヲ包容シテ居リマスル農村人口、適正規模ト云フ觀點カラ今直チニ一律ニ之ヲヤル結果、餘ツタ人口ヲドウスルカト云フコトニナリマス、寧ロ方法トシテハ逆ノヤウナ方向ニナラザルヲ得ナイノデアリマス、隨テ農村ニ於テハ結局現在ノ是等ノ人々ヲドウ云フ風ニシテ包容シテ行クカト云フコトニナリマス、私ガ先程申上ゲマシタヤウニ、農村ニ於テソレ等ノ人々ヲ包容スルニ足ル新タナ産業或ハ工業ト云フヤウナモノヲ興シテ、之ニ依ツテ包容シテ行クト云フコトニナラザルヲ得ナイノデアリマシカ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、結局今後ノ施策ノ方向ハサウ云フ方向ニ進ムベキデアラウ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○別所委員 本問題ニ付キマシテハ、昨日松延委員ヨリ御質問ガアリマシテ、一應政府委員ヨリ御回答ニナツタノデアリマスガ、之ヲ以テ満足スルコトガ出來ズ、大藏當局ノ御答辯ヲ要求シテ置イタルデアリマス、農業會經濟部ノ融資ノ運用ニ付キマシテハ、政府ノ指示ニ從ヒマシテ、外地ノ半官會社ノ社債ヲ多ク所持シテ居ツタノデアリマス、其ノ外地ノ社債ガ今後如何ニ處置セラレ、カト云フコトハ、農業會經濟部ノ運営ノ上ニ付キマシテ、重大ナル關係ヲ持ツノデアリマス、ソレハ當ニ農業會ダケノ問題デアリマセヌケレドモ、今回農林園藝法ガ改正ニナ

リ、理事監事等モ民選ヲ新タニ致シマスコトニ付キマシテハ、其ノ基礎ニ付テ非常ナ心配ヲ持チ、恐ラク是ガ大キナ障礙ニナルノデハナイカト思ハレル點モアリマス、此ノ際外資局長ノ御所見ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○野田政府委員 此ノ際外地關係ノ社債、株式等所有シテ居ラレル數ハ非常ニ多イノデアリマス、外地關係ノ社債デ内地デ發行サレタモノガ、恐ラク百億ヲ超エルノデアリマス、株式モ相當巨額ニ上ツテ居リマス、只今ノ所デハ聯合國ノ方針ガ、日本ノ國又ハ日本人ガ所有シテ居リマス在外資産ハ取上ゲテ賠償ニ充當スルコト云フコトヲ申シテ居リマス、隨ヒマシテ外地ニ色々ナ 満鐵デアルトカ、或ハ北支那開發、中支那振興其ノ他幾多ノ事業ヲ營ンデ居ル會社ガアルノデアリマス、其ノ會社ノ各種ノ事業ナリ財產ナリガ、本當ニ而シテ賠償ニ充當セラレテ來ルト云フコトニ相成ルノデアリマス、就キマシテハ、斯ウ云フ會社ノ債券ヲ持ツテ居ル、又ハ其ノ株主デアルト云フ人達ハ、如何ナル處置ヲ執ルカト云フコトニ付キマシテ、政府部内ニ於キマシテモ、非常ニ慎重ナ考慮ヲ運ラシテ居ルノデアリマス、其ノ金額ヲ全部見積リマス、非常ニ多クノモノニナリト思ヒマス、又之ニ對シテ政府ガ如何ナル措置ヲ講ズルカト云フコトニ付キマシテモ、日本ノ政府ダケデ獨斷ニ決メラレナイヤウナ事情モアルノデアリマス、色々ト考慮シテ居ルノデアリマスガ、大體ノ政府ノ氣持ト致シマシテハ、何等カノ補償ナリ何ナリノ措置ヲ講ジナケレバナラスト思ツテ居リマス、尤モ其ノ金額トカ、或ハドウ云フ條件デドノ範圍デアルト云フコト

ニ付テハ、財政ノ負擔其ノ他ノ各地ノ情勢ニ伴ヒ、補償措置等ガアリマシテ、ソコヲ關係トモ視ミ合セテ、慎重ニ考ヘテ行キタイ、只今ノ所デハ内容ハマダ申上グルニ立至ツテ居リマセヌ

○大石(大)委員 マダ三點位御尋ネシタイコトガ殘ツテ居リマス、之ハ是非大臣ニ伺ヒタイと思ヒマス、大臣ノ質問ヲ保留致シマシテ、是デ私ノ質問ハ終リマス

○川崎委員長 ソレデハ五十嵐君

○五十嵐委員 此ノ機會ニ於キマシテ蠶絲業關係ノ點ニ付キマシテ御尋ネヲ致シタイと思フノデアリマス、第一點ハ繭ノ増產ト農業會トノ關係デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、次官ニ於テ御答ヘヲ願ヒタイと思ヒマス、政府ハ終戰後ニ於ケル繭增產ノ重要性ニ鑑ミマシテ、蠶絲系統ヲ農業會ヨリ連カニ分離スベキモノデアラ、斯様ニ私ハ固ク信ズルノデアリマス、此ノ點ニ關スル政府ノ御所見ヲ御尋ネ致シタイノデアリマス、今後ノ蠶絲業ト云フモノガ、日本ノ經濟再建ノ上ニ果スベキ役割ハ極メテ大キナモノガアリ、就中聯合國ヨリノ食糧等ノ輸入ノ見返リ物資トシテ、一段ト其ノ重要性ヲ加フルコトハ、多言ヲ要シナイノデアリマス、然ル所、現在ノ機構ニ於テハ蠶絲系統ノ活潑ナル活動ヲ促進シ、又同時ニ蠶絲業諸施策ノ適切ナル實施ヲ望ムコトハ到底困難ナ狀態ニアルノデアリマス、尙且ツ現在ノ機構ニ於キマシテハ、蠶絲意欲ノ昂揚ヲ望ムト云フコトハ、洵ニ無理ナ實情ニ相成ツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ考ヘテ見マスルト、繭增產ト云フ終戰後ニ於ケル新シキ事態ニ對處スル爲ニ、私ハ

連カニ農業會カラ蠶絲系統ト云フモノヲ分離スベキデアラ、斯様ニ存ズルノデアリマスガ、此ノ點御尋ネ致シマス

○紅雲政府委員 五十嵐委員ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、今御尋ネノ農業各部門毎ノ組合ノ分立ノ點ニ付キマシテハ、御承知ノ通りニ、過去ニ於テ分立致シテ居リマシタ爲ニ、種々ノ弊害ガ之ニ伴ツテ起ツタノデアリマス、ソコデ御尋ネノヤウナ今後見返リ物資其ノ他ニ付テ、蠶絲ヲスル上ニ於テ分立ヲシタノガ宜イノデアリカト云フコトモ、確カニ一ツノ見方トハ考ヘマスルガ、政府ト致シマシテハ、統合致シテ今日ニ參ツテ居リマス、ヤハリ此ノ儘ノ形體デ進ミタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○五十嵐委員 私ハ只今ノ御答辯トハ全ク見解ヲ異ニ致スノデアリマスガ、一體蠶絲業團體ト云フモノハ、戰時中農產物ヲ初メトシテ、農家ノ生産スルモノヲ統制ヲシテ行カウト云フ大キナ狙ヒヲ以テ成立ヲ致シタノデアリマス、隨テ終戰後ノ今日ニ於キマシテハ、農業團體ガ出來タ當時ノ事情トハ、全ク事情ヲ異ニシテ居ルノデアリマシテ、本當ニ業者ノ熱意ヲ十分發揮サセ、創意工夫ヲ十分思フヤウニ事業ニ伴シテ行クト云フ觀點カラ見マス、今ノ農業會ノ中ニ包含ヲサレテ居ツタノデアリ、到底十分ナル活動ヲ期待スルコトガ出來ヌト云フノガ、是ハ本當ニ現在ノ實情ヲ一應檢討サレ、バ直チニ背ケルコトデアラウト思フノデアリマス、殊ニ蠶絲業主要府縣ハ之ヲ分離致スベキコトヲ心カラ希望致シテ居ルノデアリマス、現ニ末端組織デアアル所ノ部落ニ參リマスレバ、普通農事組合ト云フモノニ對シテ、蠶絲實行組合ガ現ニ存在

○川崎委員長 此ノ際委員長カラ委員

○別所委員 本問題ニ付キマシテハ、昨日松延委員ヨリ御質問ガアリマシテ、一應政府委員ヨリ御回答ニナツタノデアリマスガ、之ヲ以テ満足スルコトガ出來ズ、大藏當局ノ御答辯ヲ要求シテ置イタルデアリマス、農業會經濟部ノ融資ノ運用ニ付キマシテハ、政府ノ指示ニ從ヒマシテ、外地ノ半官會社ノ社債ヲ多ク所持シテ居ツタノデアリマス、其ノ外地ノ社債ガ今後如何ニ處置セラレ、カト云フコトハ、農業會經濟部ノ運営ノ上ニ付キマシテ、重大ナル關係ヲ持ツノデアリマス、ソレハ當ニ農業會ダケノ問題デアリマセヌケレドモ、今回農林園藝法ガ改正ニナ

リ、理事監事等モ民選ヲ新タニ致シマスコトニ付キマシテハ、其ノ基礎ニ付テ非常ナ心配ヲ持チ、恐ラク是ガ大キナ障礙ニナルノデハナイカト思ハレル點モアリマス、此ノ際外資局長ノ御所見ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○野田政府委員 此ノ際外地關係ノ社債、株式等所有シテ居ラレル數ハ非常ニ多イノデアリマス、外地關係ノ社債デ内地デ發行サレタモノガ、恐ラク百億ヲ超エルノデアリマス、株式モ相當巨額ニ上ツテ居リマス、只今ノ所デハ聯合國ノ方針ガ、日本ノ國又ハ日本人ガ所有シテ居リマス在外資産ハ取上ゲテ賠償ニ充當スルコト云フコトヲ申シテ居リマス、隨ヒマシテ外地ニ色々ナ 満鐵デアルトカ、或ハ北支那開發、中支那振興其ノ他幾多ノ事業ヲ營ンデ居ル會社ガアルノデアリマス、其ノ會社ノ各種ノ事業ナリ財產ナリガ、本當ニ而シテ賠償ニ充當セラレテ來ルト云フコトニ相成ルノデアリマス、就キマシテハ、斯ウ云フ會社ノ債券ヲ持ツテ居ル、又ハ其ノ株主デアルト云フ人達ハ、如何ナル處置ヲ執ルカト云フコトニ付キマシテ、政府部内ニ於キマシテモ、非常ニ慎重ナ考慮ヲ運ラシテ居ルノデアリマス、其ノ金額ヲ全部見積リマス、非常ニ多クノモノニナリト思ヒマス、又之ニ對シテ政府ガ如何ナル措置ヲ講ズルカト云フコトニ付キマシテモ、日本ノ政府ダケデ獨斷ニ決メラレナイヤウナ事情モアルノデアリマス、色々ト考慮シテ居ルノデアリマスガ、大體ノ政府ノ氣持ト致シマシテハ、何等カノ補償ナリ何ナリノ措置ヲ講ジナケレバナラスト思ツテ居リマス、尤モ其ノ金額トカ、或ハドウ云フ條件デドノ範圍デアルト云フコト

ニ付テハ、財政ノ負擔其ノ他ノ各地ノ情勢ニ伴ヒ、補償措置等ガアリマシテ、ソコヲ關係トモ視ミ合セテ、慎重ニ考ヘテ行キタイ、只今ノ所デハ内容ハマダ申上グルニ立至ツテ居リマセヌ

○大石(大)委員 マダ三點位御尋ネシタイコトガ殘ツテ居リマス、之ハ是非大臣ニ伺ヒタイと思ヒマス、大臣ノ質問ヲ保留致シマシテ、是デ私ノ質問ハ終リマス

○川崎委員長 ソレデハ五十嵐君

○五十嵐委員 此ノ機會ニ於キマシテ蠶絲業關係ノ點ニ付キマシテ御尋ネヲ致シタイと思フノデアリマス、第一點ハ繭ノ増產ト農業會トノ關係デアリマスガ、此ノ點ニ付キマシテハ、次官ニ於テ御答ヘヲ願ヒタイと思ヒマス、政府ハ終戰後ニ於ケル繭增產ノ重要性ニ鑑ミマシテ、蠶絲系統ヲ農業會ヨリ連カニ分離スベキモノデアラ、斯様ニ私ハ固ク信ズルノデアリマス、此ノ點ニ關スル政府ノ御所見ヲ御尋ネ致シタイノデアリマス、今後ノ蠶絲業ト云フモノガ、日本ノ經濟再建ノ上ニ果スベキ役割ハ極メテ大キナモノガアリ、就中聯合國ヨリノ食糧等ノ輸入ノ見返リ物資トシテ、一段ト其ノ重要性ヲ加フルコトハ、多言ヲ要シナイノデアリマス、然ル所、現在ノ機構ニ於テハ蠶絲系統ノ活潑ナル活動ヲ促進シ、又同時ニ蠶絲業諸施策ノ適切ナル實施ヲ望ムコトハ到底困難ナ狀態ニアルノデアリマス、尙且ツ現在ノ機構ニ於キマシテハ、蠶絲意欲ノ昂揚ヲ望ムト云フコトハ、洵ニ無理ナ實情ニ相成ツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ考ヘテ見マスルト、繭增產ト云フ終戰後ニ於ケル新シキ事態ニ對處スル爲ニ、私ハ

連カニ農業會カラ蠶絲系統ト云フモノヲ分離スベキデアラ、斯様ニ存ズルノデアリマスガ、此ノ點御尋ネ致シマス

○紅雲政府委員 五十嵐委員ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、今御尋ネノ農業各部門毎ノ組合ノ分立ノ點ニ付キマシテハ、御承知ノ通りニ、過去ニ於テ分立致シテ居リマシタ爲ニ、種々ノ弊害ガ之ニ伴ツテ起ツタノデアリマス、ソコデ御尋ネノヤウナ今後見返リ物資其ノ他ニ付テ、蠶絲ヲスル上ニ於テ分立ヲシタノガ宜イノデアリカト云フコトモ、確カニ一ツノ見方トハ考ヘマスルガ、政府ト致シマシテハ、統合致シテ今日ニ參ツテ居リマス、ヤハリ此ノ儘ノ形體デ進ミタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

シテ居ツテ活動シテ居ルノデアリマ
ス、併シナガラ此ノ豪賢實行組合ノ活
動モ、上級機關ガ悉ク農業會ノ中ニ包
含サレテ居リマス爲ニ、其ノ活動ヲ相當
東洋サレ、意ノ儘ニ動クコトガ出來ナ
イヤウナ實情ニナツテ居ルノデアリマ
ス、其ノ他指導ノ徹底ト云フ點カラ申
シマシテモ、色々ノ角度カラ檢討ヲ致
シマシテ、現在ノ狀態ニ於キマシテハ、
私ハ爾ノ増産ノ上ニ、少カラザル
支障ヲ來スト、斯様ニ考ヘルノデアリ
マスガ、此ノ點ハ相當政府ニ於テ御研
究ニナル御考ヘガアルカドウカ、重ネ
テ此ノ點ヲ御尋ネ致シマス

○紅露政府委員 御質問ノヤウナ會
自主的活動ニ依ツテ増産ニ邁進シナケ
レバナラヌト云フコトハ仰セノ通りデ
アリマス、其ノ點ハ政府トシテモ同感
デアリマス、併シ又一面カラ考ヘマシ
テ、今日ノ此ノ制度ニ致シマシテモ、
是ガ指導運營ニ十分留意致シマスレ
バ、其ノ目的ノ達成シ得ルト考ヘテ居
ルノデアリマスガ、御述ベノ點ニ付キ
マシテハ、今後篤ト檢討ヲ加ヘ、善處
致シタイト考ヘテ居リマス

○五十嵐委員 第二點ハ爾ノ増産ト食
糧トノ關係デアリマス、政府ハ爾ノ食
糧ノ綜合供出ノ中ニ包含セシムル意圖
アリヤ否ヤト云フ點デアリマス、實際
問題ト致シマシテ、食糧ノ生産ト爾ノ
生産トハ兩立スルコトガ非常ニ困難ナ
實情ニアルノデアリマス、即チ食糧ニ
重點ヲ置イタ場合ニ於キマシテハ、當
然養蠶經營ノ方面ニ影響ガアルノデア
リマシテ、現在ノ狀態ニ見マシテモ、
食糧ニ急ナルノ餘リ、桑園ハ年々荒廢
ノ一途ヲ辿ツテ參ッタクハ御承知ノ
通りデアリマス、詰リ爾ノ増産ノ上ニ於
キマシテ、最大ノ支障ハ食糧事情ガ懸

化致シテ居ルト云フ點ニアルノデアリ
マス、ソコデ爾ノ増産ノ對策ト致シマシ
テ、又諸般ノ情勢カラ見テ、爾ハ食糧
ナリト云フ觀點カラ食糧ノ綜合供出ノ
中ニ之ヲ含メテ參ッタクラドウカト考ヘ
マスガ、其ノ御意圖ガオアリニナルカ
ドウカ伺ヒタイノデアリマス

○補見政府委員 只今五十嵐サノ御
話ハ、爾ハ食糧ナリト云フ點ニ付キマ
シテハ、私共モ全く同感デゾイマ
ス、結局食糧ヲ得マス爲ニ、其ノ見返
リ物資トシテ主ナルモノハ申上ゲルマ
デモナク生絲デアリマス、隨テ我々ハ
此ノ爾ハ食糧ナリト云フ觀點ニ立ッ
テ、今後ノ養蠶ニ關スル施策ヲ考ヘテ
參ラナケレバナラヌト思フノデアリマ
ス、ソコデ今御話ノ綜合供出制ニ入レル
カドウカト云フ問題デアリマスガ、現
在ハ食糧生産物ノ間ニ於ケル綜合供出
制ヲ考慮致シテ居ルノデアリマシテ、
同ジ供出制ノ中ニモ、或ハ爾トカ木炭
トカ色々ノ問題ガアルノデアリマスガ
レドモ、現在ノ綜合供出制ハ、食糧増
産ノ綜合供出制デアリマスカラ、爾ニ
付テソレヲ綜合供出制ノ中ニ入レルト
云フヤウナコトハ、實ハ現在ノ所考ヘ
テ居リマセヌガ、併シ根本ノ考ヘ方デ
アル爾ハ食糧ナリト云フ觀點カラ致シ
マシテ、或ハ此ノ專業養蠶家ニ關スル
食糧確保ノ問題トス、或ハ其ノ外色々
資材確保ノ問題、斯ウ云フ問題ニ付キ
マシテハ、一般ノ米作農家ト云フヤウ
ナ人々ト同様ノ意味デ以テ、是等ニ付
テハ出來ル限リノ措置ヲ、政府トシテ
ハ講ジテ參リタイト、斯様ニ考ヘテ居
ル次第デアリマス

○五十嵐委員 只今ノ御答辯ニ依リマ
ス、綜合供出ノ中ニ入レルト云フコ
トハ考ヘテ居ラヌト云フ御話デアリマ
スガ、若シソレガ非常ニ困難ナル、
實現ヲ期スル上ニ於テ非常ニ困難デア
ルト云フコトデアリマスナラバ、只今
御話ニアリマシタヤウニ、養蠶ト云フ
モノガ、從來食糧生産ト比ベマシテ、
第二次のニ取扱ハレテ居ッタノデアリ
マスガ、是ハ尤モ無理モナイ次第デア
リタノデアリマセドモ、今後ハ養
蠶家、或ハ蠶繭ノ製造、或ハ生絲ト云
フヤウナ面ニ對シマシテモ、此ノ食糧
ト云フコトガ如何ニ大キナ影響ヲ持ッ
テ居ルカト云フコトヲ、十分御考慮ナ
サレマシテ、善處サレンコトヲ希望致
シテ置キマス

○五十嵐委員 只今ノ御答辯ニ依リマ
ス、綜合供出ノ中ニ入レルト云フコ
トハ考ヘテ居ラヌト云フ御話デアリマ
スガ、若シソレガ非常ニ困難ナル、
實現ヲ期スル上ニ於テ非常ニ困難デア
ルト云フコトデアリマスナラバ、只今
御話ニアリマシタヤウニ、養蠶ト云フ
モノガ、從來食糧生産ト比ベマシテ、
第二次のニ取扱ハレテ居ッタノデアリ
マスガ、是ハ尤モ無理モナイ次第デア
リタノデアリマセドモ、今後ハ養
蠶家、或ハ蠶繭ノ製造、或ハ生絲ト云
フヤウナ面ニ對シマシテモ、此ノ食糧
ト云フコトガ如何ニ大キナ影響ヲ持ッ
テ居ルカト云フコトヲ、十分御考慮ナ
サレマシテ、善處サレンコトヲ希望致
シテ置キマス

○五十嵐委員 只今ノ御答辯ニ依リマ
ス、綜合供出ノ中ニ入レルト云フコ
トハ考ヘテ居ラヌト云フ御話デアリマ
スガ、若シソレガ非常ニ困難ナル、
實現ヲ期スル上ニ於テ非常ニ困難デア
ルト云フコトデアリマスナラバ、只今
御話ニアリマシタヤウニ、養蠶ト云フ
モノガ、從來食糧生産ト比ベマシテ、
第二次のニ取扱ハレテ居ッタノデアリ
マスガ、是ハ尤モ無理モナイ次第デア
リタノデアリマセドモ、今後ハ養
蠶家、或ハ蠶繭ノ製造、或ハ生絲ト云
フヤウナ面ニ對シマシテモ、此ノ食糧
ト云フコトガ如何ニ大キナ影響ヲ持ッ
テ居ルカト云フコトヲ、十分御考慮ナ
サレマシテ、善處サレンコトヲ希望致
シテ置キマス

○五十嵐委員 只今ノ御答辯ニ依リマ
ス、綜合供出ノ中ニ入レルト云フコ
トハ考ヘテ居ラヌト云フ御話デアリマ
スガ、若シソレガ非常ニ困難ナル、
實現ヲ期スル上ニ於テ非常ニ困難デア
ルト云フコトデアリマスナラバ、只今
御話ニアリマシタヤウニ、養蠶ト云フ
モノガ、從來食糧生産ト比ベマシテ、
第二次のニ取扱ハレテ居ッタノデアリ
マスガ、是ハ尤モ無理モナイ次第デア
リタノデアリマセドモ、今後ハ養
蠶家、或ハ蠶繭ノ製造、或ハ生絲ト云
フヤウナ面ニ對シマシテモ、此ノ食糧
ト云フコトガ如何ニ大キナ影響ヲ持ッ
テ居ルカト云フコトヲ、十分御考慮ナ
サレマシテ、善處サレンコトヲ希望致
シテ置キマス

ト建方ヲ變ヘマシテ、大體法律ニ於キ
マシテハ一ツノ基礎ヲ作ル、後ノ其ノ
基礎ノ上ニ立ッテ如何ナル法人組合ヲ
構成スルカト云フコトハ、是ハ關係業
者ノ自主的ノ意思ニ任セテアル次第
デアリマス、隨テ只今御述ベニナリマ
シタヤウニ、中央ニ於テ一ツノ團體ヲ
作リタノデアリマス、此ノ團體ハ
全國團體ニ依リマシテ、全體ノ統制
ヲ致スノデアリマスガ、爾ノ増産
デアリマストス、或ハ又爾ノ配給ト云
フコトニナリマス、是ハ地方々々デ
處置スベキコトモ相當アラウカト存ジ
テ居リマス、隨テサウ云フ地方的ノ要
求ニ基キテ、地方ノ關係業者ガ蠶絲業
會ヲ作ラレル、其ノ必要ガアリ、其ノ
要求ヲ以テ作ラレルト云フコトデア
レバ、ソレヲ認メテ行キ、又ソレヲ助成
シテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居
ルノデアリマシテ、只今ノ所私ノ知ッ
テ居リマス範圍デハ、全國ノ蠶絲業會
ヲ作り、其ノ内部機構ト云フコトデ、
地方組織ヲ考ヘテ居ルヤウデアリマ
ス、是ガ獨立ノ團體トシテ發展シテ行
キ、サウシテソレガ中央ノ團體ト繋
ト云フコトモ亦結構デアル、斯様ニ考
ヘテ居リマス

○五十嵐委員 法案ノ第三十條ニ「蠶
絲業會ハ其ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業
ヲ行フ」斯ウアリマスガ、此ノ蠶絲業
會ト云フハ、中央並ニ地方ノ蠶絲業
會ヲ含メタモノト解釋シテ宜シイカ、
此ノ點ガ一ツ……

○山添政府委員 先程申シマシタヤウ
デアル、此ノ蠶絲業會ノ制度ハ農業團體法
組合法ト云フ制度ト違ヒマシテ、ドウ
云フ團體ヲドウ云フ風ニ作ルカト云フ
コトハ法律ニ特定シテ居ルノデアリマ
ス、其ノ點ヲ一ツ伺ヒマス

○山添政府委員 此ノ蠶絲業會ノ制度
ニ付キマシテハ、今マデノ法人ノ立法

○山添政府委員 此ノ蠶絲業會ノ制度
ニ付キマシテハ、今マデノ法人ノ立法

○山添政府委員 此ノ蠶絲業會ノ制度
ニ付キマシテハ、今マデノ法人ノ立法

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

○五十嵐委員 第四點ト致シマシテ、
日本蠶絲製造株式會社ノ解散ニ伴フ措
置ニ付テ御尋ネ致シマシテ、爾ノ増
産ヲ、其ノ第一點ト致シマシテハ、
共助金ニ關スル事項デアリマス、同會
社ノ共助金トシテ支拂ヲ致シマシタル
金額ハ一億五千萬圓近クニ上ツテ居
ルダラウト思ハレルノデアリマス、今回
蠶絲會社ノ解散ニ依リマシテ、新タニ
事業ヲ始メヨウト思フモノハ共助金ヲ
返シテ、サウシテ復元ヲ致スト云フコ
トニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、
此ノ場合ニ共助金ヲ返還シタ新タニ
事業ヲ始メタル云フコトノ出來ナイ方
方、サウ云フ人々ガ相當アラウト思フ
ノデアリマス、只今ノ豫想ト致シマシ
テハ、サウシタル人ハ當然共助金ヲ返還
ハ出來ナイ譯デアリマス、隨ヒマシテ
返還不能ノ共助金ト云フモノガ約四千
萬圓見當ニ上ルノデハナカラウカト豫
想セラレテ居ルヤウデアリマス、ソレ
カラ更ニ長纖維カラ短纖維ヘノ製造設
備ヲ轉換致シマシタル等ノ費用ト致
シマシテ、同會社ハ二千六百萬圓ヲ要
求致シテ居ルヤウデアリマス、共助金
ノ返還不能ニナル四千萬圓ヲ合セマス
ト、六千六百萬圓ト云フ數字ニナルノ
デアリマス、之ヲ一體ドウ處置ナナ
レルカト云フ點デアリマス、同會社ハ
申スマデモナク政府ノ指導ニ依リマシ
テ設立致サレタルデアリマスガ、當時
事業ノ實態カラ見マシテ、此ノ大合同
ハ如何ニモ行過ギアルト云フヤウナ

關係カラ、私共ハ當時之ニ反對ヲ致シ
タノデアリマスガ、遂ニ是ハ政府ノ強
力ナル指導ニ依ツテ、企業ノ大合同ヲ
ナサシメタノデアリマス、其ノ後ノ同
社ノ事業ヲ見マス、蠶絲業ノ生産意
欲ヲ低下シ、更ニ創意ヲ減殺セシムル
ニ至ツタコトハ、何ト申シマシテモ事
實デアラウト思フノデアリマス、ソコ
デ是等ノ斯ウシタモノヲ處置シマス
ルノニ會社ノ責任ト云フコトハ固ヨリ
デアリマスケレドモ、政府ニ於キマシ
テモ、會社創立ノ経緯ニ鑑ミマシテ、
相當ノ措置ニ出ヅベキ責任アリト考ヘ
ルノデアリマスガ、此ノ點ニ關スル御
考ヘヲ一ツ承リタイノデアリマス

○山添政府委員 只今ノ蠶絲製造會社
ノ解散ニ關スル問題デアリマスガ、御
述ベニナリマシタヤウナ事情デゴザイ
マシテ、蠶絲製造會社ハ、當時ノ事情
トシテ、又戰爭經濟ニ即應シテ蠶絲業
ヲ運営スルト云フ意味カラ、ア、云フ
措置ニ出マスコトハ、是ハ已ムヲ得ナ
イコトデアツタト存ズルノデアリマシ
テ、又其ノ後ニ於ケル仕事ト致シマシ
テモ、計畫生産ヲ達成スルト云フ上カ
ラハ、ア、云フ仕事ガ必要デアツタト
考ヘルノデアリマスガ、ソレニシマシ
モ、何分團體ガ大キイト申シマスカ、
サウ云フコトモゴザイマシテ、運営上
必ズシモ、完全デナカツタト云フ點
ハ、私共モ認メテ居ルノデアリマシ
テ、彼此レサウ云フ問題ニ付キマシ
テ、政府ト致シマシテモ、相當責任ヲ
感じテ居ルノデアリマス、倍テ共助金
ノ問題デアリマスガ、御指摘ニナリマ
シタヤウニ、當時ト今ト考ヘマス
ト、蠶絲額ガ非常ニ減ツテ居リマス、
隨テ共助金ノ返還ガ出來ナイト云フ部
分ヲ生ズルコトモ亦已ムヲ得ナイノデ

アリマス、併シ其ノ金ノ出所ハ、市中
銀行カラ借りタモノデアリマシテ、結
局是ハ返シテ行カナケレバナラヌノデ
アリマス、ソコデ蠶絲業界一般ノ協力
ニ依リマシテ、何等カノ適當ノ方法ニ
依ツテ、之ノ措置ヲ付ケナケレバナラ
ヌト、斯ウ云フ考ヘヲ持チマシテ、日
本中央蠶絲會ノ方ニソレニ付テノ意見
ヲ求メ、目下關係業者ニ寄ツテ貰ツテ
相談ヲ致シテ居ル狀況デアリマス、サ
ウ云フ方途ト旁々併セマシテ、適當ナ
措置ヲ執リタイト思フテ居リマス

○五十嵐委員 次ニ先般「マツカ
サ」司令部カラノ指令ニ基キマシテ、
政府ハ蠶絲業公共機關ヲ設ケルコトト
ナツタト聞イテ居リマスガ、其ノ作
ラントスル蠶絲業公共機關ト云フモノ
ノ性格、竝ニドウ云フヤウナ構想ノ下ニ
御作リニナラントスルカ、此ノ點ヲ承
リタイノデアリマス、蠶絲業會ト云フ
モノハ、言フマデモナク業者ノ自主的
ナル組織デアリ、又自治的團體デア
ルノデアリマシテ、隨テ今後ハ蠶絲業
ノ改良、或ハ發達、ソレカラ統制ト云フ
ヤウナ事柄ニ關スルコトハ、是ハ大體
蠶絲業會ニ行ハシメルト云フコトデア
ラネバナラヌト考ヘルノデアリマス、
ソレデ蠶絲業公共機關ノ設立ニ依リマ
シテ、其ノ結果ガ蠶絲業會ノ行フベキ
事業ト競リ合ヒマスル、或ハ障礙ヲ生
ズルヤウナコトガアツテハナラヌト思
フノデアリマス、隨テ此ノ際ニ於テ、
蠶絲業公共機關ト云フモノノ性格、竝
ニドウ云フヤウナ構想ニ依ツテオ作リ
ニナルカ、此ノ點ヲ明カニサレタイト
思フノデアリマス

○山添政府委員 蠶絲業公共機關ニ付
キマシテハ、蠶絲業ニ對スル「マツカ
サ」司令部ノ指令ニ依ツテ作ルコ

トニナツデ居リ、其ノ案ヲ只今總司令
部ノ方ニ提出中デアリマス、併シ大體
其ノ承諾ヲ得テ居リマシテ、目下「ワ
シントン」方面ニ照會ヲサレテ居ルモ
ト思ヒマス、其ノ構想ト申シマス
カ、作ル形ハ、大體公共機關ハ政府ノ
機關デアリ、且ツ指令ニ示サレテ居
マスヤウニ、一種ノ委員會ニ致シマシ
テ、大部分ノ委員ノ方々ハ、蠶絲業ノ
各業種、各團體ヲ代表スル人ニナツテ
戴イテ、サウ云フモノヲ主體ニシテ、
官民一緒ニナツテ構成スル一ツノ機關
デアリマス、具體的ニ申シマスレバ、
農林次官ヲ會長ニ致シマシテ、サウシ
テ關係各縣ノ官吏、又蠶絲業者ノ方々
ハ二十名ト云フコトヲ豫定シテ居リ、
其ノ他學識經驗者ヲ入レテ、三十名以
内ノ一種ノ委員會ヲ作ル、斯ウ云ウ考
ヘデ居リマス、其ノ仕事ハ、聯合軍最高
司令部ノ指令ニモ據テゴザイマシタ
ガ、蠶絲業ニ關スル技術的諸問題ノ調
整、生絲ノ検査及價格付ノ監督竝ニ蠶
出生絲ノ品質、織度ト云フヤウナコト
ニ付テ、業會ニ對シテ報告スルコト、其
ノ他海外市況ノ調査、尙又蠶絲業ニ付
テ、其ノ他重要ナル事項ノ審議、斯ウ云
フ風ニ考ヘテ居リマス、此ノ性格ト致
シマシテハ、結局一種ノ蠶絲業界一般
ニ對シテ役ニ立ツヤウナ事柄ヲ取攝メ
タリ、發見シタリシテ、之ヲ業界一般ニ
報告スルト云フ役目ヲ持ツテ居ルノデ
アリマシテ、何等此處デ仕事ヲシタリ、
特別ノ決定スル機關デハゴザイマセヌ、
政府ト此ノ機關ノ關係ヲ見マスレバ、
一ツノ官民合體ノ或ル種ノ行政ト云フ
ト言葉ガ強イノデアリマスケレドモ、
色々「アドヴァイス」ヲスル、斯ウ云フ
機關デアリ、又重要事項ニ付テ農林大
臣ノ諮問ニ應ズルヤウナ性格ヲ持ツテ

居ルモノト考ヘテ居リマス、之ニ對シ
マシテ、蠶絲業會ノ方ハ、仕事ヲスル
機關デアリ、又蠶絲業ニ關スルコトノ
自治統制ヲ自行フ機關デアリマシ
テ、一方ハ忠告ト云フカ、報告スル機
關デアリ、一方ハ仕事ヲ自ラスル機關
デアリ、斯ウ云フ所デ截然ト性格上ノ
區別ガゴザイマス、是ハ餘程宜ク連絡
ヲ取ル必要モゴザイマセウト思ヒマス
ガ、是等ノ點ニ付キマシテハ、公共機關
ノ構成者ガ、業界ノ出身者ヲ以テ主タ
ルモノトスル、斯ウ云フ所、又其ノ委
員ニナツテ貰フ人ノ選任方法ニシマシ
テモ、業界カラ推薦サレタ方ヲ農林大
臣ノ方デ任命スル、斯ウ云フ用意モ致
シマシテ、其ノ間何等矛盾モナケレバ
隙モナイ、斯ウ云フ風ニ致シテ參リタ
イ積リデアリマス

○川崎委員 大石君ニ申上ゲマス
ガ、今内務大臣ガ特ニ差繰ツテ御見エ
ニナリマシタガ、選舉法案ノ方ガ直ク
本會議ニ上程サレルサウデアリマス、
其ノ時ニハアチラノ方ヘ行カネバナ
ヌト云フコトデスカラ、簡單ニ御願ヒ
シマス

○大石(大)委員 内務大臣ハ非常ニ御
忙シイノデ、此ノ席ニ御見エヲ願フコ
トガ出來ナイト存ジマシテ、先刻農林
當局ニ申上ゲタノデアリマスガ、内務
省ト宜ク交渉シテ置イテ下サルト云フ
コトデシタガ、更ニ私カラ質問致シマ
ス、既ニ縣ノ方カラ御報告ガ行ツテ居
ルト思ヒマスガ、高知縣ノ長岡郡長岡
村ニ起リマシタ一ツノ災害事件デアリ
マスガ、御承知ノ通り、高知縣ノ平野
ニハ「アメリカ」軍ガ上陸スルト云フ
ノデ、作戰上アノ平野ハ固ヨリ、背後
ノ山嶽地帯ニモ大キナ陣地ヲ造ツタノ
デアリマス、其ノ關係ヨリ終戦後、長

岡村ニ海軍ノ通信隊ガ居リマシテ、之
ニ砲彈ヲ集結シタノデアリマス、隨分
夥シイ、山ノ如キモノデアリマシタ、
サウシテ此ノ砲彈ヲ分解シマシテ、火
藥ヲ取ツテ、サウシテ其ノ火藥ヲ一定
ノ場所ニ運ンデ來テ、一ツノ穴ヲ作り
マシテ、中デ燃ヤシテ居ツタ、是ハ皆
勤勞奉仕デヤツテ居ツタノデアリマ
ス、所ガ十九日ノ午前十時デアリマ
ス、新タナル勤勞奉仕ガ來タモノデス
カラ、ソコニ居リマスル海軍ノ將校デ
ゴザイマスルカ、或ハ下士官デアリマ
スルカ、ソレガ指圖ヲシテ居タラシ
イ、色々分解ノ方法ナリ、其ノ穴ニ詰
メマスル分量ナリヲ示シテ居ツタヤウ
デアリマス、ソレハ日々ヤツテ居ツタ
通りデアリマス、ソレハ日々ヤツテ居
テ、其ノ儘其ノ人ハ何處カヘ去ツテシ
マツタ、其ノ後デ、何分勤勞奉仕ニ來
テ居ル者デアリマスルカラ、餘計入レ
レバ大キナ火ガ出マスカラ、ソコニ何
カノ興味ヲ持ツタノカ、澤山クベル、
ソコデ野良ニ居ツタ百姓共ガ危イト大
キナ聲デ之ヲ制シタサウデアリマス、
サウスルト撥イデ來テ居ツタ者ガ其ノ
穴ニ箱ゴシニ抛リ込メテモアルシ、途
中デ其ノ健投ゲタ者モアルシ、忽チ
大キナ火ニナリマシテ、天ニ沖スル
程ニ火ガ揚ツタノデアリマス、サウス
ルト勤勞奉仕ニ來テ居リマシタ者ハ皆
逃ゲル、風下ニ逃ゲタ者ハ多少トモ怪
我ヲシタヤウデアリマス、一般農民モ
皆ソレレ、ノ防空壕ニ隠レ、或ハ崖ノ
根ニ隠レ、或ハ川ニ入ツテ身ヲ伏セ
ル、斯ウ云フ風ハ譯デ、人畜ノ死傷ハ
ゴザイマセヌ、私ハ二十五日マデ現場
ニ行ツテ居リマシタケレドモ、議會ニ
來ナケレバナラヌノデ、二十五日マデ
シカ居リマセヌデシタ、ソレマデハ死

傷者ヲ世話シテ居リマシタガ、マダ死
ンデ居リマセヌ、所ガ十時頃カラ晩
十二時頃マデ、其ノ大砲ノ彈ガ爆發シ
テ四方八方ニ飛散ツタモノデアリマス
カラ、家ノ全壊ガ十二軒位ト覺エテ居
リマス、ソレカラ半壊、或ハ瓦ガ飛ン
ダトカ、硝子ガ割レタ、建具ガ飛ンダ
ト云フモノハ、殆ド現場ヨリ西南ニ互
リマシテハ、二、三里ノ距離マデ行ッ
テ居ルノデアリマス、此ノ半壊ノ被害
戸數ハ私ガ出ル先月ノ二十五日マデハ
調査ガ出来テ居リマセヌ、サウシテ又
全焼シマシタ家モ七、八軒アルヤウデ
アリマス、何レモ側ニサウ云フ軍事施
設ガアリマスルカラ、重要ナモノハ疎
開フシテ居リマスケレドモ、終戦後持
ツテ歸ツテ居ツタモノガ皆焼ケテシマ
ツタ、無論食糧モ燒ケテシマツタ、サ
ウシテ彈ガヒユウノ來ルモノデスカ
ラ、外ハ出ルコトモ出来ナイ、其ノ晚
カラ翌二十日ノ明方マデ穴ノ中ニ居
ツテ、固ヨリ着ノミ着ノ儘、食糧ハナ
シト云フ状態デアツタ、サウシテ又稻
ヲ刈リマシテ、之ヲ積ミマシテ、麥橋
モアルノデ之ヲ處理シテ居リマシタケ
レドモ、ソレモ燒ケテシマツタ、其ノ
近傍ノ田畑ハ硝子ノ破片、砲彈ノ破
片、其ノ他色々ナ金屬類ノ破片デ一面
ニ埋マツテ居ツタ、是ハサウ廣イ範圍
デモアリマセズ、又戸數カラ見マシテ
モ被害人口カラ見マシテモ、戰災カラ
言フト言フニ足ラヌモノデアリマス
ガ、其ノ被害ノ程度ト云フモノハ深刻
ナモノデアリマス、ソコデハ進駐軍
ガ來テ其處ニ集メタノデアリマスカ
ラ、進駐軍ノ方ニ離レテ見マス、進
駐軍ハ之ヲ海底ニ沈メテ處理スルコト
ニシテ居タ、所ガ砲彈ノ藥莖ガ眞鍮デ
アリマスカラ、其ノ眞鍮ガ欲シイ、是

ハ日本ノ國家カラサウ云フ要求ガアツ
タカラ、ソレデヤソレヲヤラウト云フ
コトデ、此ノ分解作業ハ縣ガシタ、斯
ウ云フ御話デアリマス、實際其ノ通り
デセウ、分解作業其ノ他ニ關シテ進駐
軍ハ現場ニ來テ居リマセヌデシタ、所
ガ戰災ナラバ他ノ救済ノ途モアルガ、
終戦後ニ於テハドウニモシヤウガナイ
ト云フノガ、縣當局ノ御考ヘダサウデ
アリマス、ソコデ所轄ノ警察カラ巡査
部長ガ巡査ヲ二人連レテ現場ヘ參リマ
シテ、アツチコツチ調査ヲ致シマス
ケレドモ、田畑ニマデ及バナイト云フコ
トデ、被害者ハ極度ニ憤慨ヲシテ居ル
譯デアリマス、一體是ハ進駐軍ガ言フ
ガ如ク國ガ實ヒ受ケテ縣ニ其ノ處置ヲ
セシメテ居ツタモノデアルカ、責任ノ
所在ハ一體何處ニアルカト云フコトヲ
御尋ネシタイト思フノデアリマス
○堀切國務大臣 只今ノ高知縣ノ事件
ハ、御話ノヤウニ洵ニ氣ノ毒ナ、非常
ナ損害ダツタヤウデアリマス、此ノ損
害ニ付キマシテノ報告ハ、知事ノ方カ
ラ來テ居リマス、唯ソレノ處理ノ關係
ガドウ云フ風ニナツテ居ルカト云フコ
トニ付キマシテハ、コチヲノ方デモ、
マダハツキリ致シマセヌ、是ハ取調ベ
ルヤウニ致シタイト思ヒマス
○大石(大)委員 御答辯ニ依リマシテ
能ク分リマシタガ、ソレデハヤハリ進
駐軍ノ言フガ如ク、此ノ砲彈ト云フモ
ノハ日本國ガ實ツタノデアリマスカ
○堀切國務大臣 其ノ邊モ能ク分リマ
セヌ、調ベテ見ナケレバナリマセヌ
ガ、ドウモア、云フ火藥類ヤ何カハ、
向フノ方デ處分スルコトガ原則ニナツ
テ居ルト思ヒマスガ、今ノ御話ノヤウ
ナ、サウ云フコトガアリマスカドウデ
スカ、其ノ點ヲ調ベテ見ナイト、ハッ

キリシタ御答ヘヲ致シ兼ねマスカラ、
調ベマス
○大石(大)委員 御調ベニナリマシ
テ、國ガ實ツテ縣ニ處理ヲシタトモ
實ガ確定致シタ時ニ於キマシテハ、
レニ對スル救済ト申シマスカ、何カ方
法ガアルノデアリマスカ
○堀切國務大臣 一寸考ヘテ見マシ
テ、ドウモソレデケノ火藥ハ非常ニ危
險ナモノヲ縣ガ引受ケテ處理スルト云
フコトハ、一寸ナカリサウニ思フノデ
スカ、其ノ邊ドウ云フ事情デアルカ能
ク調ベテ見ナイト分リマセヌ、隨ヒマ
シテ其ノ後ノ御問ヒノコトモ、今何ト
モ申上ゲラレマセヌ
○大石(大)委員 ソレデハ御取調ベノ
結果ヲ待ツ外アリマセヌガ、御參考ニ
申上ゲマスガ、其ノ處理ニ掛ツテ居リ
マシタ栗原高知縣知事ハツイ最近ニ更
迭ニナリマシタ、今ノ知事ガ著任早々
デアリマスガ、栗原君ノ話ニ依リマス
ト、國ガ實ツテ縣ニ處理ヲセヨト云フ
内務省ノ命令デヤツタト申シテ居ルノ
デアリマス、ソレ故内務省ノ方ニ御尋
ネシタイト云フ考ヘヲ持ツタノデアリ
マス、内務大臣ニ對スル私ノ質問ハ是
デ終リマス
○川崎委員長 ソレデハ今日ハ此ノ程
度ニシテ、明日ハ午前十時カラ此ノ會
議ヲ開キマス
午後四時十二分散會

昭和二十年十二月二十六日印刷

昭和二十年十二月二十七日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局